

社会・環境への責任 2011

社会・環境への責任 2011 目次

● トップメッセージ	1
● 企業方針	2
● コーポレート・ガバナンス	4
● コンプライアンス	5

特集：医療を通じて社会に貢献する

● がん患者さんの治療を支える血小板輸血	7
● 患者さんの負担を減らす脳動脈瘤のカテーテル治療	9
● 患者さんに先端医療を届ける医療者のパートナーに	11

社会との関わり

● お客様とともに	13
● 株主・投資家とともに	16
● お取引先とともに	17
● 社員とともに	18
● 社会貢献活動	22

環境との関わり

● 環境にやさしい企業をめざして	29
● 環境に配慮した商品	32
● 地球温暖化防止	37
● 資源の有効活用	42
● 化学物質管理	47
● グリーン購入の推進	50
● 環境監査の実施	52
● 事業活動・物質フロー	54
● サイトデータ	55
● 取り組みの歴史	56

● 活動の目標と実績	58
● 報告方針	60

トップメッセージ

トップメッセージ



代表取締役 会長

中尾 浩治

代表取締役 社長

新宅 祐太郎

世界の患者さんのために

テルモは、「医療を通じて社会に貢献する」を企業理念に掲げ、創立以来90年にわたり大切に守り続けています。この企業理念のもとに、優れた製品を開発し、高い品質で安定して供給すること、さらに医療を取り巻くさまざまな課題にも積極的に取り組んでいくことは、私たちの社会的責任であると考えています。

医療を取り巻く環境は世界中で大きく変化しています。先進国においては、高齢化、経済不況といった社会環境の変化により医療費抑制やQOL(生活の質)向上が大きな課題となり、新興国では経済発展が進み、一層の医療へのニーズが高まっています。

こうした社会のニーズに対し、私たちはテルモならではの技術とノウハウで、医療に提供できる新たな価値を追求し続けてまいります。

医療機器の進化は、患者さんの身体への負担を少なくし、治療にかかる時間やコストの軽減につながるため、医療における効率性、経済性を高めることが可能になると考えます。例えば埋め込み型の補助人工心臓は、長期の入院治療から在宅での療養を可能にするなど、治療環境をも大きく変革します。

一方で、医療機器は正しく使う医療技術を伴って初めて効果を得られるものです。医療の高度化がますます進む中、医療者が安全で高度な技術を習得するための技術トレーニングなどソフト面のサポートも、医療の発展・普及のために重要な使命と考えます。

医療を通じて世界の人々になくてはならない会社になる。それがテルモのめざすところです。それは私たちの意志であり、決意でもあります。

企業方針

企業理念

医療を通じて社会に貢献する

私たちは、医療の分野において価値ある商品とサービスを提供し、医療を支える人・受ける人双方の信頼に応え、社会に貢献します

ビジョン

テルモはユニークな輝く技術で、人にやさしい医療を実現します

5つのステートメント

開かれた経営

私たちは、開かれた経営を基本とし、適正な利潤の確保・還元につとめ、リーディング企業にふさわしいグローバルな事業発展を図ります。

新しい価値の創造

私たちは、科学的思考と時間と柔軟な発想を重んじながら、価値ある商品とサービスを創造し、より深くお客様のニーズに応えます。

安全と安心の提供

私たちは、誠意とこだわりを持って技術と品質の向上にとり組み、安全と安心を提供します。

アソシエイトの尊重

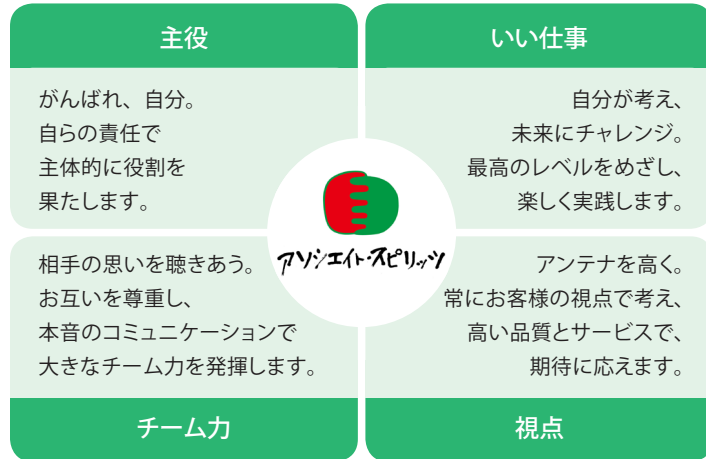
私たちは、個の尊重と異文化の理解を大切に、アソシエイト・スピリッツのもとに、未来にチャレンジする風通しのよい企業風土をつくります。

良き企業市民

私たちは、公正な企業活動と環境への責任ある行動を展開し、信頼される企業市民をめざします。

アソシエイト・スピリッツ

「人は資産」と考えるテルモでは、社員を「アソシエイト」と呼んでいます。1996年にアソシエイト自らが考え出した4つのキーワード「アソシエイト・スピリッツ」は、一人ひとりが「主体的にチャレンジし、お互いを尊重しあうことでチーム力を発揮し、お客様により高い品質とサービスを提供する」ことを宣言しています。



テルモのこころ

創業以来培ってきた独自の考え方や仕事の仕方はテルモの個性であり、テルモだけがつくり出せる価値やブランドの源泉です。その一方で、常に変化する社会にすばやく対応し、新しい価値を創造・提供できなければ、企業は存在価値を失い、社会的使命を果たせません。

これからもテルモがテルモであり続けるためには、柔軟に変えていくべきものも必要ですが、未来に向かって決まて変えてはいけない基本的な考え方や志があります。それが「テルモのこころ」です。

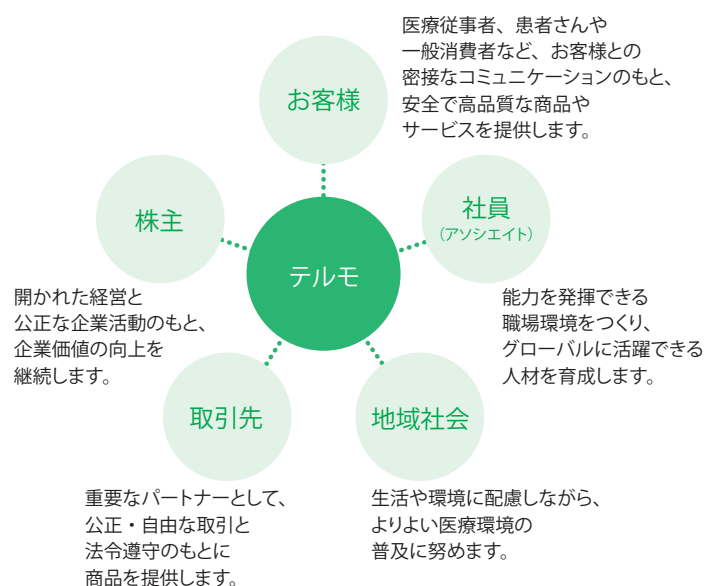


テルモのこころ

テルモのステークホルダー

テルモの事業活動は、さまざまな立場の方々に支えられて成り立っています。商品を使われるお客様をはじめ、テルモを取り巻くすべての方々がステークホルダーです。

テルモはみなさまと良好なコミュニケーションを図りながら、今後ともに成長していきます。



コーポレート・ガバナンス

テルモは、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、医療の分野において価値ある商品とサービスを提供することにより、ステークホルダーの利益を含めた企業価値の継続的な向上をめざしています。同時に、企業理念を具体化するためのステートメント（企業活動規範）として、「開かれた経営」、「良き企業市民」などを掲げて実践しています。これに基づき、経営の健全性と透明性を確保し、社会から信頼される企業であり続けるため、以下の通りコーポレート・ガバナンスの体制を整えています。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制の概要

取締役会は14名中3名を社外取締役とし、監督機能の強化と意思決定の質の向上を図っています。また、役付取締役を廃止しており、取締役は代表取締役と取締役の2区分とし、主に全社的な経営方針の決定や業務の監督にあたっています。一方、執行役員制の拡充を図り、執行役員は職制に応じた職責に基づき、それぞれの業務執行にあたっています。経営を担う取締役は、その経営責任を明確にし、経営環境の変化に機動的に対応する最適な経営体制を確保するため、任期を1年としています。

経営の透明性と客観性を高める目的から、取締役候補者の推薦及び取締役の業績評価、報酬案について検討する「報酬人事委員会」を、社外取締役を含む体制で設置しています。

また、経営全般へのアドバイスを目的に、社外の有識者から成る「アドバイザリーボード」を設置し、経営層との意見交換を実施しています。

テルモは監査役会設置会社であり、監査役会は4名中2名を社外監査役とし、ガバナンスのあり方と運営状況を確認し、取締役会機能を含めた経営における日常的活動の適正性の確保に努めています。なお、監査役のサポート組織として「監査役室」を設置し、専任スタッフを配置して、監査業務の一層の強化を図っています。

監査役会は、6名で構成される内部監査部門である「業務監査室」と月1回の報告会を実施し、内部監査及び財務報告に係る内部統制評価の報告を求めるなど、連携を深めています。また、監査役は内部統制委員会に出席し、定期的に内部統制に係る整備・運用及び評価に関する報告を受けています。

また、会計監査人に対しては、監査役会と年6回程度の会合を実施し、積極的な意見及び情報交換を行うとともに、必要に応じて監査の実施経過について適宜報告を行うなどの対応をしています。また、財務報告に係る内部統制評価については、業務監査室から随時必要な報告等を受けるなど、公正な監査が実施できる体制づくりを行っています。

なお、常任監査役土佐 嘉彦は、テルモの経理部長を経験しており、また、社外監査役高井 延幸は、株式会社山武において最高財務責任者を経験しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。また、社外監査役大森 政輔は、弁護士の資格を有しています。

コーポレート・ガバナンス

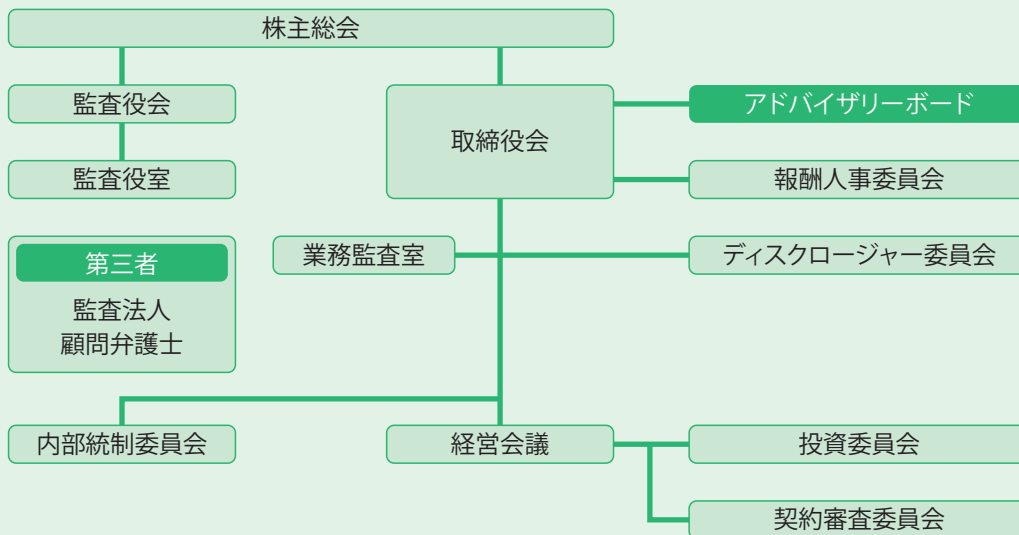
内部統制システムの整備

テルモは、取締役会直轄の「内部統制委員会」が内部統制に関する審議を行うとともに、これらの一層の強化を推進しています。

なお、テルモは、会社法に基づく「内部統制システムの基本方針」を取締役会において決定しています。

同基本方針において、テルモは、テルモの行動規範である「テルモグループ行動規準」の遵守を事業活動遂行の基本に据え、「内部統制委員会」が中心となって、コンプライアンス体制、情報の保存・管理に係る体制、リスク管理体制、経営の効率性確保体制、テルモグループにおける内部統制システムの整備、監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制のより一層の整備を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



2011年6月30日時点

コンプライアンス

🍃 コンプライアンス

■ コンプライアンス体制

テルモの企業理念である「医療を通じて社会に貢献する」は、企業としてだけでなく、全アソシエイトのめざすところ。医療に関わる企業としての高い倫理観を持って事業を行っていくために、これからも法令遵守と企業倫理を軸とした公正・公平な事業活動を進めていきます。

当社は、これらの活動を推進するために、「内部統制委員会」を設置し、コンプライアンスの観点からグループ全体の重要な課題を審議し実行しています。また、「内部統制委員会」の指示のもと、グループ各社は、コンプライアンス活動を推進する役割で「コンプライアンス・オフィサー」を設置し、各社での取り組みを実践しています。その活動を通じて、重要な情報を「内部統制委員会」に報告・審議することでグループ全体のコンプライアンス活動を推進しています。

■ テルモグループ行動規準 (SAKURAルール) の遵守

テルモは企業に求められる社会的要請により深く応えるため、海外を含むテルモグループの全アソシエイトを対象に日常の行動規準を定めた「テルモグループ行動規準 (SAKURAルール)」を2008年4月に制定し、テルモグループ全アソシエイトにSAKURAルールの冊子を配布しています。

SAKURAルールでは、「企業理念」と「テルモのこころ」を礎に「アソシエイト一人ひとりには公正な事業活動と環境への責任ある行動を展開し、信頼される企業市民の模範とならなければなりません」と宣言し、各現場に応じた勉強会を実施するなど、企業倫理の重要性を認識できる環境を整備しています。また、人権の尊重や差別の排除についても明文化し、徹底して取り組んでいます。

■ 企業倫理ホットライン「ロバの耳」

「アソシエイト全員で会社をよくしよう」、「会社の風通しをよくしよう」のスローガンのもと、内部通報制度として企業倫理ホットライン「ロバの耳」を2003年に開設しました。

「ロバの耳」は、「テルモグループ行動規準」に照らして気になる内容・状況があった場合、正社員・派遣社員の区別なく、アソシエイトが連絡・相談できます。匿名でも電話、メール、封書などが利用できる体制を整え、プライバシー保護や不利益の禁止を徹底した上で、改善すべき問題に取り組んでいます。

■ 生命倫理の尊重

テルモの医療機器・医薬品開発及び評価は、生命の尊厳を第一に考え、関連法や公的指針だけでなく、社内規定を定め、倫理性と科学性の両立を図っています。

研究開発及び製品評価のための動物実験では、2005年の法改正により明確化された3Rの理念※に加え、4番目のRである「実験責任 (Responsibility)」を果たせるよう、社内に委員会を設置しています。委員会では、社員教育、実験計画の審査、適正な実験実施と終了確認、動物の適正な飼養・管理・自己点検を実行しています。

※ 3Rの理念：Replacement (動物を使用しない研究への代替)、Reduction (動物数の削減)、Refinement (動物の受ける苦痛の軽減)の3項目を十分に考慮・検討した上での研究が重要であると、1959年にRusselとBurchが初めて提言した。日本では2005年、動物の愛護及び管理に関する法律の改正で、その理念が明文化された。

がん患者さんの 治療を支える血小板輸血



がん治療で減少する「血小板」を補う輸血

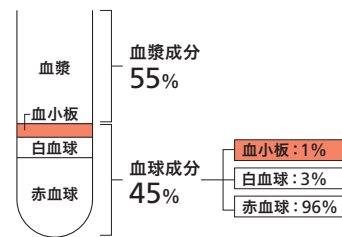
1980年代から日本人の死因の第1位となっている「がん」。欧米でも、がんは死因の第2位となっています※1。現在、日本では年間35万人以上が、がんにより亡くなっており※2、150万人以上の患者さんが継続的に治療を受けています※3。

抗がん剤による化学療法や放射線療法では、その副作用で赤血球や血小板などが減ることがあります。特に、血小板には止血という重要な役割があり、減少すると出血のリスクが高まるため、輸血によって血小板を補う必要があります。

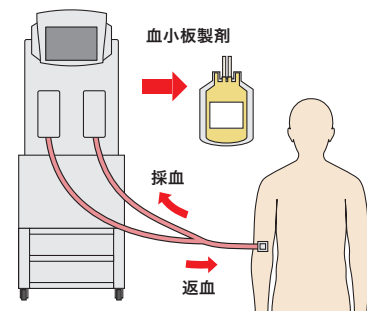
※1 WHO Cause-specific mortality : regional estimates for 2008

※2 厚生労働省「平成22年(2010)人口動態統計の年間推計」より

※3 厚生労働省「平成20年(2008)患者調査の概況」より



血液の成分について



成分献血の流れ

成分採血装置を使用して血小板や血漿といった特定の成分だけを採血し、体内で回復に時間のかかる赤血球などを再び体内に戻します。

効率を高めた成分採血システムで輸血を支える

テルモは、献血で使用する成分採血システムにおいて、独自の技術を追求め、大切な血小板を効率よく採取できるよう、遠心分離の機能を高めた装置で輸血医療を支えています。また、成分献血は血漿や血小板といった特定の成分のみを採取し、回復に時間のかかる赤血球などを再び体内に戻すため、全血献血と比べて献血者の身体への負担が軽くなります。

献血者と患者さんの身体にできるだけ負担をかけないこと、また、善意のかたちである貴重な血液を無駄にしないこと。テルモは、血液システム商品を世界へ向けて広く提供し、グローバルにがん治療、輸血医療を支えていきます。



成分採血システム
短時間で高濃度の血小板が採取できます。

血小板輸血は最も効果的な治療方法

現代医療では、がん患者の増加や治療法の進化に伴い、血小板輸血の必要性が高まっています。一方で、献血からつくられる血小板製剤は入手できる数が限られている貴重なものです。輸血は血小板数を迅速かつ確実に増やす効果的な手段です。

輸血から細胞治療の全般にわたる総合的な企業として、今後より有効な製品の開発に期待しています。

慶應義塾大学医学部 輸血・細胞療法センター
教授 半田 誠 先生



患者さんの負担を減らす 脳動脈瘤のカテーテル治療

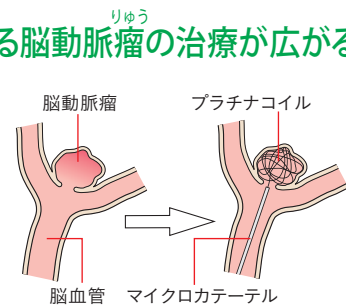


傷口が小さく、入院も短期のカテーテル治療。コイルによる脳動脈瘤^{りゅう}の治療が広がる

脳の血管にできたこぶ、脳動脈瘤。破裂すると生命に関わるクモ膜下出血や脳内出血を引き起こす可能性があります。

脳動脈瘤を治療する方法には、開頭によりこぶの根元をクリップで挟んで血液の流入を防ぐ外科手術と、脚の付け根の血管からカテーテル（細い管）でプラチナ製のコイルを運び、こぶを詰める脳血管内手術があります。

欧米では、コイルによる脳動脈瘤の治療が5割以上を占めています。日本では現在2割程度となっていますが、身体への負担が少なく入院期間が短いカテーテル治療は、今後さらに広がっていくと考えられています。



脳動脈瘤治療用コイル

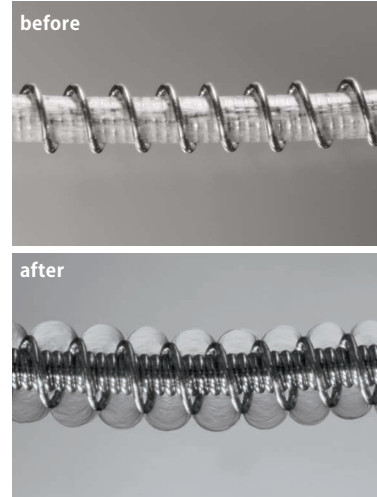
脳動脈瘤が破裂するのを防ぐために、カテーテルを用いて塞栓物質（極めて細いプラチナ製のコイル）を脳動脈瘤の中に詰め、血液が流れ込むのを遮断します。

特集 医療を通じて社会に貢献する

血液中の水分によって膨らむ独自のコイル。効率のよい塞栓が可能に

脳動脈瘤の治療で大切な点は、こぶの中にコイルを均等に隙間なく詰め、血液の流入を防いで破裂の危険性を低くすることです。

テルモは独自技術によってハイドロゲルコイルシリーズを開発しました。コイル外層に施されたハイドロゲルが血液中の水分を吸収して膨張し、コイルとコイルの隙間を埋めることで充填率（こぶを詰める割合）を向上させました。ハイドロゲルを使った塞栓用コイルは、医師による臨床試験においても良好な結果が得られ、世界的な医学誌『THE LANCET』に掲載されました。



テルモが開発したハイドロゲルコイルシリーズ。コイル外層に施されたハイドロゲルが血液中の水分を吸収して膨張し、コイルとコイルの隙間を埋め効率よく塞栓します。

広がるコイル治療の領域

血管の破裂だけでなく、血管が詰まる脳梗塞の治療に役立つ機器の開発など、テルモは脳血管内治療に役立つ商品をトータルで提供することに取り組んでいます。

さらに、これらの脳血管内治療用に開発された技術が、脳以外の動脈瘤の治療や、多量出血時の止血治療、がん治療などにも活用され始めています。患者さんの生命を支え、治療における負担の少ない医療機器の開発に、テルモはこれからも力を入れていきます。

コイル塞栓術は脳動脈瘤を抱える人々にとって大きな朗報

私たちは、身体に負担の少ないコイル塞栓術による脳動脈瘤治療の成績がますます向上してきていることを、臨床試験で示しました。

コイル塞栓術は脳外科手術より早い回復が期待でき、またリスクも小さくできます。また、ハイドロゲルをコーティングしたコイルは破裂した動脈瘤へのよりよい治療を可能にします。これらは脳動脈瘤の問題を抱える多くの人々にとって大きな朗報です。

Philip White, M.D.
Western General Hospital
Edinburgh, Scotland, U.K.



患者さんに先端医療を届ける 医療者のパートナーに



高度化する心臓や脳手術をサポート。医療者へトレーニングの場を提供しています

医療の現場では、新しい医療機器や高度な治療技術の開発が絶えず進歩しています。その一方、最新の医療機器を正しく扱うには、商品に合った治療技術の開発や研鑽が欠かせません。トレーニングを積んだ医師やライセンスを持つ医師にしか扱えない機器や商品も数多く存在するため、「医療機器の発展」と「トレーニングによる技術習得」は、先端医療を支える大事な両輪といえます。

テルモは各種シミュレータや医療現場を再現する設備を整えたテルモメディカルプラネックスを開設し、トレーニングのサポートを行っています。心臓や脳の治療スキルの向上のために多くの若手医師のトレーニングが開催されています。



テルモメディカルプラネックスにおける
トレーニング風景



世界各地でトレーニングをサポート (写真はド
イツにおけるカテーテルトレーニングの風景)

身体への負担が軽い、TRI治療の普及に向けて

動脈硬化や血栓などで心臓の血管が狭くなる虚血性心疾患の治療方法の一つに、身体への負担が少ない手首からカテーテルを挿入するTRI※治療が普及してきました。ただし、手首から心臓につながる血管は細く蛇行しているため、手術では医師の高い技術が求められます。

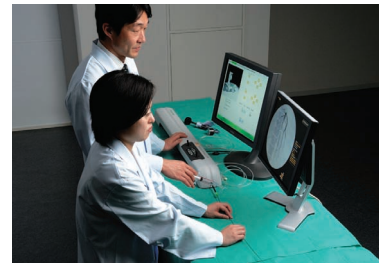
そこでテルモは、このTRI治療の普及をサポートするために、コンピュータを使ったシミュレーショントレーニングの開発や実技研修会のサポートを積極的に行い、医療者が安心かつ安全に商品を使える環境を整えています。また、日本人医師が欧米やアジアなどの現地医師に対して、あるいは海外から日本に来た医師に対してTRIのレクチャーや手技指導をするためのサポートなど、世界に向けたより安全な医療の普及・啓発活動に努めています。

すべては、「医療を通じて社会に貢献する」ために。患者さんの安心と負担軽減だけでなく、医療者のみなさまが確かな技術で商品を安全にお使いいただけるよう、テルモはこれからも医療者のよきパートナーとして、先端医療の普及に貢献していきます。

※ TRI：Trans-Radial coronary Intervention 経橈骨動脈冠動脈形成術



手首からのカテーテル挿入～TRI



カテーテルシミュレータ

カテーテル治療などの技術向上に大きな価値をもたらす

私は、心臓カテーテル治療の難しい症例において技術を磨くトレーニングを、若手医師を対象に行っています。技術の習得には繰り返し練習することが大切ですが、実際の医療現場ではそれができません。シミュレータなどを使って自分の間違いを何度も修復しながら、繰り返し学ぶことができる場を提供してくれるテルモは、私たち医師に大きな価値をもたらしてくれています。

東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科
教授 中村 正人先生



お客様とともに

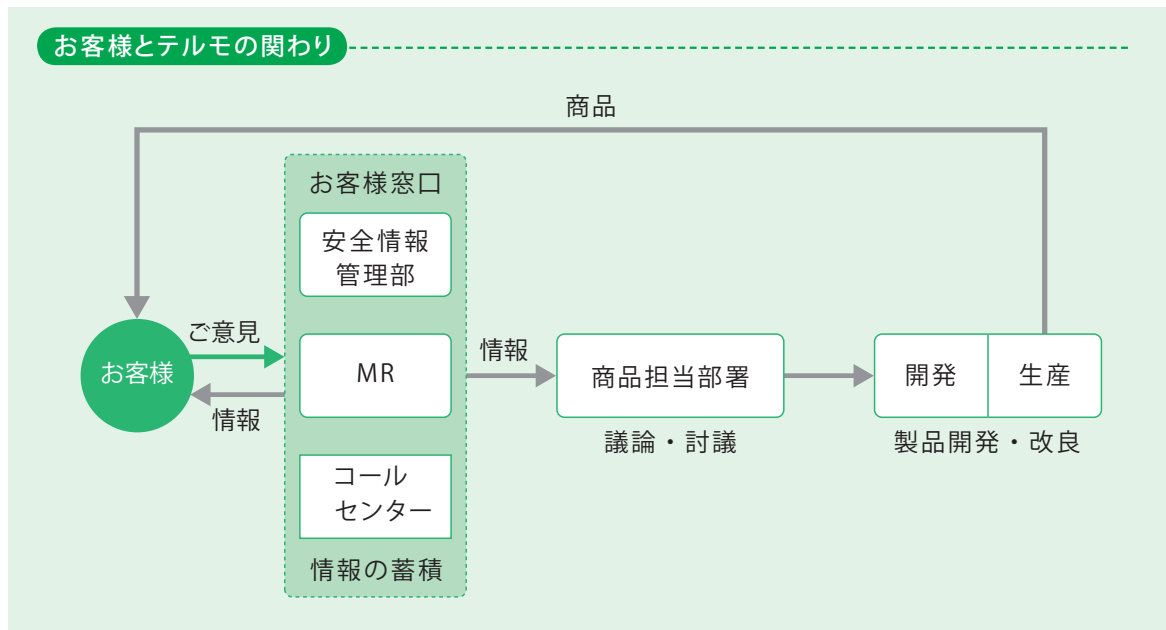
お客様とコミュニケーションを図りながら安全で質の高い「人にやさしい医療」の実現に取り組むことが、医療機器メーカーとしての役割であり、責任であると考えています。

🍃 お客様との関わりに対する考え方

私たちテルモのお客様は、医療従事者や患者さん、健康や病気に関心のある一般消費者の方々などです。

お客様のニーズを的確にとらえ、お客様に必要とされる製品を開発することが、私たちの役割であると考えています。また、販売した商品をお客様に安心してお使いいただくための活動も重要な取り組みとして位置づけています。

テルモは、こうした考えのもと、お客様とのダイレクトかつ密接なコミュニケーションを安全な医療の基礎として、製品開発とサービスの両面から人々の健康な暮らしに貢献できるよう、事業活動を遂行しています。



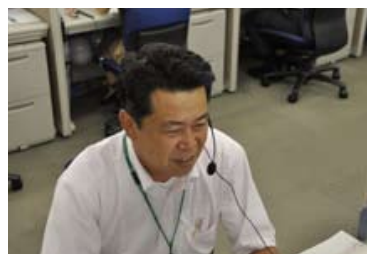
社会との関わり

お客様の声に耳を傾ける

テルモ・コールセンター

テルモ・コールセンターは、一般のお客様、医療機関、代理店のみなさまから、1日約1,500件にのぼる電話でのお問い合わせをいただいています。テルモの商品は医療機関で使われるもの、家庭で使われるものなどさまざまですが、一つひとつのお問い合わせにすばやく的確に回答するため、分野ごとに専門のコミュニケーターが対応しています。新しく着任したコミュニケーターは2週間から4週間にわたる研修を受け、日々トレーニングを実施しています。また年2回、商品知識力・コミュニケーション力・ホスピタリティ・効率化などの項目ごとにレベルチェックを受け研鑽を積んでいます。

お客様に満足いただけるようコミュニケーションの維持・向上に努めるとともに、在宅医療の患者さんなど緊急性が高い分野のお問い合わせに関しては、24時間対応しています。また、お寄せいただいたお客様の声を社内に反映していく仕組みも強化し、商品の改善や新たな製品の開発に役立てています。



専門知識を持つコミュニケーターが対応

Web お問い合わせ

お客様の声を商品へ生かす

医療安全に関する情報を蓄積

お客様から寄せられる、商品の品質や安全性・適正使用に関する情報は社内の安全情報管理部に蓄積されています。重要な情報は添付文書に記載するほか、ウェブサイトや業界団体を通じた情報発信、MR※1が医療機関を訪問して情報を提供するケースなど、スピーディかつきめ細かなコミュニケーションが図られています。

また、蓄積された情報は製品の開発や改良・改善、医療安全に関する医療機関の研修サポート(T-PAS※2)にも生かされています。

※1 MR: Medical Representativeの略。医療機関向けの情報担当者。

※2 T-PAS: Terumo Proactive Action for Safetyの略。テルモ独自の予測に基づいた安全対策の研修会。

医療機関の研修をサポート

テルモでは、シリンジや輸液セットなどの医療機器による事故を防ぐため、添付文書に記載された注意事項のうち、重要度の高い事象を模擬的に体験して理解する「T-PAS」を各医療機関で行っています。医療従事者のみなさまより、「事故につながる使用方法を模擬体験することで、改めてリスクの重大さに気づいた」、「思い込みや先輩からの口頭伝承による使用方法だけに頼ってはいけないことに気づいた」などの評価をいただいています。2010年に開催された第5回医療の質・安全学会学術集会では、この研修について全国の4つの病院から報告がされました。



医療機器の正しい使用方法を学ぶ研修をサポート

社会との関わり

安全・安心な品質への取り組み

品質を守ることは医療に関わる企業の重大な責務であり、テルモの企業価値を根底で支えています。より安全に、安心してお客様にお使いいただくため、テルモでは商品の品質にサービスの品質を加えた総合品質の向上に、全アソシエイトが取り組んでいます。

国際規格に適合した品質保証体制

1995年、テルモは欧州の医療機器指令への対応を皮切りに、国際規格に適合した品質マネジメントシステムと既存の医薬品GMP※1をベースにした高度な品質保証体制の融合を進めました。そして現在、グローバルな要求に適合する品質マネジメントシステムの構築を推進しています。

医療機器の品質保証のための国際規格であるISO13485※2の認証取得を、国内の5拠点（富士宮工場、愛鷹工場、甲府工場、研究開発センター、テルモ・クリニカルサプライ）と海外の生産15拠点で取得しています。また、薬事法、欧州医療機器指令、近年強化されている米国のFDA規制のほか、急速に進むグローバルハーモナイゼーションによる新興国での規制強化など、医療機器や医薬品に対する各国の規制動向や要求内容の把握を行っています。また、それらを取捨する形で品質マネジメントシステムの継続的な改善に努めています。

※1 医薬品GMP：原料の受入から製造、出荷までのすべての過程で製品が安全につくられ、品質を保つために定められた規制システム。

※2 ISO13485：医療機器の品質保証のための国際標準規格。



工場での厳しい品質管理

安全・安心を追求する品質方針

品質マネジメントシステムの構築と実施、その有効性の維持のため、経営者が自ら品質方針を設定しています。各部門はこの方針に基づいて品質目標を設定し、トップの方針がアソシエイト一人ひとりの目標に落とし込まれていきます。品質方針の一番目に掲げている「お客様の視点」がテルモの品質保証のベースになっています。

品質方針

私たちは、医療の現場に安全と安心をお届けするため、

- ・お客様にとって価値ある製品を追求します。
- ・品質システムにおける自らの役割を理解し、実践します。
- ・仕事の進め方を常に見直し、改善します。

2004年6月30日 テルモ株式会社

高品質を守り抜く監査体制

品質を維持・向上させるため、品質マネジメントシステムが適切に遵守・運用されていることを客観的に評価する内部監査を実施しています。内部監査は、トレーニングを積み一定の基準に達したアソシエイトが行います。結果は経営者に報告され、改善指摘を受けて品質マネジメントシステムの継続的な改善につなげます。さらに、薬事法をはじめ欧米各国から全世界に拡大しつつある規制や、取引先企業からの個別要求事項に適合していることを証明するため、年に数回の外部監査を受けています。

海外でも厳しい品質管理を実施

海外工場の役割が増す今、国内で培った品質向上のノウハウを海外アソシエイトに伝える一方、体系的な考え方や標準化といったシステム面の多くを彼らから学んでいます。相互交流を続ける中、国内で独自に発展した評価手法の「初期流動品質確認※」が、海外工場でも「Shoki-Ryudo」として導入され始めました。

※ 初期流動品質確認：新製品を量産移行する際に、品質の不具合の有無や製品仕様などを「お客様の視点」に立って再度確認する品質管理。

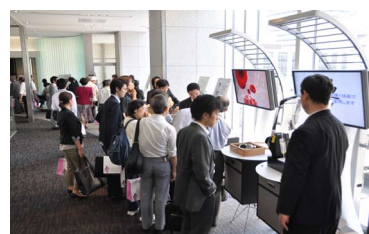
株主・投資家とともに

テルモは、株主や投資家の方々とのコミュニケーションを通じて「開かれた経営」に努めています。高い透明性を保ち、フェアな情報開示を行うとともに、株主総会をはじめとしたさまざまな機会を通じ、コミュニケーションの強化に努め、テルモの事業や製品だけでなく、医療を深く理解してもらえるように、さまざまな工夫をしています。「良き企業市民」として、分かりやすく質の高いコミュニケーションをめざしています。

 IR基本方針(投資家の皆様へ)

テルモファンを広げる株主総会

株主総会では、売上や利益などの業績報告はもちろん、商品や技術がどのように医療に貢献しているのかについて分かりやすく解説し、株主のみなさまにテルモへの理解を深めていただけるように心がけています。会場にはテルモの商品の展示コーナーを設置し、医療機器を間近でご覧いただきました。今後も株主のみなさまとのコミュニケーションをより一層緊密なものとし、テルモへの理解を深めていただけるよう努めていきます。



株主総会での商品展示

個人投資家向けセミナーを開催

投資家のみなさまと直接ふれ合う機会の少ない地域では、IR担当者が毎年数回個人投資家向けの会社説明会を行っています。2010年度は大阪・熊本・鹿児島で開催し、多くの方々からテルモに対する期待の声をいただきました。このような株主や投資家のみなさまとの交流の場を、今後も定期的に設けていく予定です。




個人投資家向けセミナーを実施

投資判断に役立つIR情報の開示

テルモは、自社ウェブサイトにてIR情報を開示しています。特に、「テルモ四季報」を通じ、個人投資家のみなさまの投資判断に役立つような、コンパクトで分かりやすい情報発信をめざしています。

 ウェブサイト「テルモ四季報」(投資家の皆様へ)

 ウェブサイト「投資家の皆様へ」



ウェブサイト「テルモ四季報」

お取引先とともに

テルモは、医療を通じて社会に貢献するという企業理念のもと、
原材料の調達を推進し、患者さんや医療従事者に対して、
安全かつ安心に商品をお使いいただけるよう、原材料の選定を行っています。

原材料調達に関するポリシー

2009年10月に、テルモは人にやさしく環境にもやさしい企業をめざし、「Human×Eco 開発指針」を策定しました。これにより、

1. 次世代に害のない材料選定（環境負荷の低減）
2. 資源を無駄なく使用できる材料選定（省資源化による削減）

等も考慮し、新たなステージの調達をめざしています。

このような考えを基本にお取引先と公平かつ公正な関係を維持・継続し、また、各国の業事規制・法令ルールにのっとった原材料の調達に、継続的に取り組んでいます。

原材料調達の取り組み

テルモの商品は160カ国以上へ販売されており、生産は、日本で5拠点、海外では15拠点で行われています。原材料調達に関する環境が激しく変化する中で、品質と安定供給の確保を第一に、医療現場へ高品質の商品を供給できるよう最適地購買に取り組んでいます。

下請法の対応

下請法遵法に関し、行政機関である公正取引委員会・中小企業庁主催の講習会への積極的な参加による啓発・促進を実施しています。

また、下請法の理解と周知を図るべく、下請管理者を配置し、下請法強化月間には、発注担当者を中心に下請法の説明会あるいは下請法遵守状況のヒアリングをすることで、親企業として遵法すべきポイントの徹底と再認識の確認を行っています。さらに社内教育の実施により、遵法に対する意識の維持・向上に努めています。

お取引先へのアンケート

お取引先より信頼される資材部門となるよう、さらなる改善を図るため、毎年、お取引先へアンケートを実施しています。

内容は、テルモの資材取引上のビジネスマナーをはじめ、取引倫理、資材選定方法等お取引に関わる種々の問い合わせなどです。アンケートのご回答やご意見に基づき、当社の資材部門の課題を分析した上で、工場資材部門へフィードバックし、課題の解消とともに今後の資材のあり方を確認し、反映するツールとして役立てています。

また必要に応じて、ご意見をいただいたお取引先と直接的な話し合いを行い、相互の信頼関係の向上に努めています。

資材の品質向上推進

製品の品質をより高めるために、購入資材の品質管理の強化に取り組んでいます。

また現在、医療機器規制の国際整合化を進める国際会議であるGHTF (Global Harmonization Task Force) がサプライヤー管理の強化をガイドラインとして打ち出しています。テルモは、各工場で品質情報の共有化を図り、お取引先の協力を得ながら購入資材の品質向上に努めています。

社員とともに

🌿 国境を越えて…一人ひとりが主役になれる会社をめざして

全員が主役となって「自らを高め続ける努力をし、主体的に行動する人」という意味を込めて、テルモグループでは社員のことを「アソシエイト」と呼んでいます。

医療を通じて社会に貢献するために、国境を越えて世界の医療を支える集団、それがテルモです。

VOICE

海外で活躍するアソシエイトの声

テルモメディカル・デ・メヒコ社 マーケティング担当者(右奥)

メキシコでカテーテル商品のマーケティングを担当しています。現在、心臓カテーテル技術を向上させる医師向けのトレーニングプログラムを、メキシコ政府の関連省庁とともに実施しています。この仕事を通じて、患者さんのQOL(生活の質)向上につなげたいという強い思いで取り組んでいます。



医師へのトレーニング(メキシコ)

テルモベトナム社 管理担当(後列中央)

テルモベトナム社は、日本をはじめアジアや欧米に向けた製品を生産しています。設立当初はベトナムの法律や慣習に戸惑いながらも、お客様に安全と安心を提供するという品質方針を全員で共有し、組織体制や製造環境の整備、人材育成を進めてきました。今後もグローバルな医療貢献の一翼を担う拠点として、さらに生産拡大を図りたいと思います。



テルモベトナム社アソシエイト

社会との関わり

🍃 お互いを尊重し、チーム力を発揮

テルモは、一人ひとりの力をチームの力にすることで、仕事の成果を高める強い組織をめざしています。

■ 柔軟な組織編制と人材配置 ～アソシエイト・プライド

2009年度にスタートした「アソシエイト・プライド」は、既存の組織の枠にとらわれず、ミッション達成のために最適なメンバーを柔軟に集め、「プライド※(チーム)」を結成できるしくみです。異なる専門性、視野を持ったメンバーがぶつかり合うことで、新しい発想を生むための風土改革として取り組んでいます。

リーダーには、職位や年齢に関係なく、能力のある人、自ら手を挙げた意欲ある人など、プライドのミッションに応じて最適な人を柔軟に抜擢しています。

既に組織の壁を越えた、多彩な「プライド」が数多く活動しており、最近では、国境を越えたグローバルなプライド結成も行われています。

※「誇り」という意味に加え、「お互いに協力するライオンの群れ」という意味を持っています。



組織の壁を越えて活動するプライド

■ 国境を越えた連携で価値を生み出す ～グローバルD&D

テルモがグローバルに事業を拡大させるために欠かせないのが、国境や職種を越えたアソシエイトの連携です。

薬剤と医療機器の融合をめざすD&D(ドラッグ&デバイス)の取り組みでは、日本・欧州・米国の開発、生産、マーケティング、販売が一体となり、グローバルな「プライド」を結成。単に協力・連携して仕事を進めるだけでなく、日米でアソシエイトの交換留学を行うなど、お互いに相手の懐に飛び込み、本音でぶつかり合い新しい発想を生むという「プライドの精神」を実践しながら、ビジネスの実現に取り組んでいます。



グローバルな連携でビジネスの実現をめざす

社会との関わり

多様な人材が交じり合う場

テルモでは、多様な人材の交流に取り組んでいます。

世界各国の幹部が戦略を共有し活発な議論を行う「経営合宿」、全社で大きな成果を上げた事業所やアソシエイトを表彰する「グローバルアワード」など、テルモグループとしての一体感を大切にしながら経営を推進しています。

また、日本ではアソシエイトが、自分の力で仕事を勝ち取る「ACE公募（社内の求人募集制度）」を行っています。2010年度は、グローバル（海外駐在員）候補、新規ビジネスなどの募集に対して、約90名の応募があり、13名が合格を勝ち取りました。

また、「人事異動以外にも、他部門を知る機会がほしい」というアソシエイトの声を反映して「社内留学」を制度化。部門間のコミュニケーションを円滑にする効果も生まれています。

異なる文化の価値観が混ざり合うことで、新たな気づきやシナジーが生まれる風土をテルモはめざしています。



ACE公募 募集マーク

VOICE

社内留学経験者の声 ～1カ月間の日・米交換留学を通して～

テルモメディカル社(米国) 医療器事業企画担当

留学前は、事業戦略や商品開発について何時間も電話で話し合い、頻りにメールをすることもありましたが、実際に顔を突き合わせて課題に向かい、お互いを知ることによって、より一体感のある仕事の進め方ができるようになったと思います。日本のアソシエイトと築いた関係は、私の大きな財産です。



テルモ株式会社 医療機器 事業戦略企画担当

以前は時に強い口調で意見をぶつけ合う場面もありましたが、そのような時に頼りになるのは、米国に席をおき、直接のコミュニケーションで培われた人間関係だと思っています。現在、グローバル市場を見据えた医療機器の開発に取り組んでいますが、全員の力で成功に導きたいと思っています。



社会との関わり

アソシエイトのオーナーシップを高める ～テルモフィリピンズ社

シリンジなどの生産を行うテルモフィリピンズ社では、現地スタッフを中心とした事業運営をめざしています。チームリーダーにオーナーシップ(自立/自律)を求めるとともに、ホスピタリティや英語力を生かし、世界中のお客様とのコミュニケーション向上とスピーディな対応をめざしています。

明確な目標管理や実行責任を追求して自己の成長を大切にするとともに、評価制度の見直しも行いました。また、意思決定の迅速化を図り、日々業務改善を積み重ねています。さらに、日本の工場と同等以上の品質水準や生産性を求めるべく、社内の研修制度の充実と早期育成のカリキュラムを実践し、世界一のシリンジ工場をめざしています。



テルモフィリピンズ社のアソシエイト

VOICE

海外トップマネジメントの声

テルモタイランド社 代表取締役 ソムサク ジャラスビラヤグルさん
～学べば学ぶほど価値を生む(The more we learn the more we earn)～

企業の真の価値は、そこで働く人たちの価値の総和であると考えています。アソシエイトは質の高い商品を提供するだけでなく、医療に携わる使命感を持ち、自らを磨く努力が必要です。テルモタイランド社のメンバーは、「学べば学ぶほど価値を生む」ことをスローガンに、「一人ひとりが自らの価値を高めること＝経営に参加すること」という意識で仕事に取り組んでいます。



コツコツ努力する縁の下の力持ちに光をあてる

現場の誇り賞

テルモの成長を支えているのは、高い業績を残すアソシエイトだけではなく、「日々地道な努力を続けるアソシエイトにも光をあてる」という考えのもと、テルモでは毎年「現場の誇り賞」の表彰を実施しています。

2010年度は、現場で推薦を受けた約120名の中から、工場の設備担当者やカテーテル治療のトレーニングプログラムを企画する担当者など6名が受賞しました。



2010年度「現場の誇り賞」受賞者

社会貢献活動

テルモは、優れた商品やサービスを提供して医療に貢献するだけでなく、事業活動に関連する情報提供、災害支援、地域社会への貢献にも重点的に取り組んでいます。

病気の予防に役立つ情報を提供

健康情報テレビ番組「カラダのキモチ」

2006年より、健康情報番組「カラダのキモチ」を提供しています。予防医学の重要性が増す中、役立つ医療・健康情報をお届けし、健康生活に貢献することが目的です。毎回身近なテーマを取り上げ、ドクターの監修のもと医学的な観点から健康的な毎日を送るためのヒントを分かりやすくお届けしています。

週刊! 健康カレンダー「カラダのキモチ」

毎週日曜日 朝7:00～7:30

CBC / TBS系列 全国28局ネット放送

ウェブサイト「週刊! 健康カレンダー「カラダのキモチ」」



身近なテーマで健康生活を提案

「テルモ健康天気予報®」

2004年から、その日の気象が健康状態や疾病に与える影響を予報する「テルモ健康天気予報®」をテレビ、ラジオ、ウェブサイトで紹介しています。予報項目は、関節痛、熱中症、ぜんそく、血圧、片頭痛などで、独自の計算式で予報しています。

テルモが行った健康と気象に関する意識調査では、81%の人が「気象や季節の変化」と「体調」は関係があると思っており、73%の人が実際に体験していることが分かりました。これらの結果からも、生気象学に基づいた病気の発症予防や悪化防止に役立つ情報が求められていることが分かります。

ラジオ「テルモ健康天気予報®」

毎週土曜日 朝7:20～7:30頃 TBSラジオ 954kHz (関東)

ウェブサイト「テルモ健康天気予報®」




ウェブサイト「テルモ健康天気予報®」

社会との関わり

「生活習慣病予防セミナー」を開催

生活習慣病を予防するには、日々の自己管理が大切です。テルモでは、ウェブサイトやパンフレットなどを通じて健康に関する情報を発信するほか、2005年度からは一般の方々を対象とした「生活習慣病予防セミナー」を、ドラッグストアチェーンと共同で開催し、延べ8,000名の方が参加されました。

 ウェブサイト「生活習慣病予防セミナー」



一般の方々を対象にしたセミナーが好評

「新健康カレッジ」を開催

テルモは聖路加看護大学と共同で、市民向けの健康支援セミナー「新健康カレッジ」を2008年より開催しています。市民のみならずが主体となって自らの健康をつくり育てる社会の実現をめざし、生活習慣病予防やインフルエンザなど身近な疾患をテーマにさまざまなセミナーを実施しています。

聖路加看護学園 理事長 日野原 重明氏をはじめ著名な専門家の講師陣が分かりやすく解説する内容は好評をいただいています。

 ウェブサイト「新健康カレッジ」



新健康カレッジを聖路加看護大学にて開催

下肢静脈瘤・リンパ浮腫 市民セミナーを開催


テルモでは、下肢静脈瘤・リンパ浮腫の啓発促進と症状改善や進行予防を目的とし、地域の方へ医療情報を提供するセミナーを開催しています。セミナーでは、下肢静脈瘤の原因や治療法などの情報と、弾性ストッキングの使用が症状改善や予防につながることをお伝えしています。また主にかん治療の後遺症であるリンパ浮腫について、その症状や原因、早期治療の重要性をお知らせしています。



下肢静脈瘤セミナーの様子

上海万国博覧会に参加

2010年5～10月まで、中国・上海万国博覧会の日本産業館に参加し、映像上映や展示を行いました。テルモのブースでは、最先端の高精細3Dハイビジョン映像を用いて、人類が進化の中で「体温」による優れた免疫システムを手に入れたことや、先端医療技術としてカテーテル治療や補助人工心臓を紹介しました。期間を通して210万人の方々にご覧いただきました。また、イベントステージでテルモ健康測定会を開催し、体温や血圧の測定体験や、健康に関するクイズショーなど、楽しみながら健康管理の重要性を知っていただけるイベントも行いました。

 ウェブサイト「中国2010年上海万博 公式サイト」



3Dハイビジョン映像で先端医療技術を紹介


社会との関わり

ペットの健康に役立つ情報を提供

2011年1月より、ラジオ番組「宏子先生の動物クリニック」を提供しています。ペットを飼っている方はもちろん、動物が好きな方にも「楽しんで、役に立つ、ワンポイント情報」をお届けしています。ペットオーナーのみならずから好評をいただき、放送開始8年目となる長寿番組です。

ラジオ「宏子先生の動物クリニック」

毎週日曜日 午後2:40～2:50 文化放送 1134kHz (関東)

 [ウェブサイト「宏子先生の動物クリニック」](#)



獣医師の立場で親身にアドバイス

医療の発展への貢献

テルモ科学技術振興財団


「財団法人テルモ科学技術振興財団」は1987年に設立され、生命科学に関わる素材や生物工学、生体防御機構など科学技術に関する研究の助成や振興を図り、これまで計767件(約11.1億円)の助成を行ってきました。

2010年度は、「特定研究助成」として大型骨欠損治療のイノベーション実現に向けた橋渡し研究など3件、「一般研究助成」としてヒトiPS/ES細胞由来心筋細胞の単離法など16件、「国際交流助成」として第14回国際免疫学会議など28件に助成を行い、幅広いジャンルでの研究振興に努めてきました。

さらに2010年7～12月にかけて、バイオマテリアル研究を通じて再生医療分野の発展に大きく寄与するグローバルの研究者を対象にした「テルモ国際賞」への募集を国内外に行い、審査選考を経て3月に受賞者が決まりました。2012年には受賞者を日本に迎え、授賞式と講演会を予定しています。

また、2009年に開設した中高生向け生命科学情報ウェブサイト「生命科学DOKIDOKI研究室」のアクセス数は年間約10万件にのぼりました。再生医療をテーマに基礎編から臨床編まで紹介しています。

 [ウェブサイト「財団法人テルモ科学技術振興財団」](#)

 [ウェブサイト「生命科学DOKIDOKI研究室」](#)



2010年度 特定研究成果報告会



第1回 テルモ国際賞審査風景

社会との関わり

中国の医療の質向上をめざす「テルモ基金」

2007年、中国浙江省にある杭州工場（泰爾茂医療産品（杭州）有限公司）の操業10周年を機に、少しでも多くの人々が医療の恩恵を受けられるようにと、浙江大学に「テルモ基金」を創設しました。

西洋と東洋の医学を融合した新しい医療の創造をめざす研究への助成を行うほか、優秀な学生を対象に奨学金を寄贈し、中国の医療向上に貢献しています。第一期（運営期間：2007～2009年）が終了し、継続して2010年より第二期がスタートしました。



浙江大学医学院学生との交流

【「テルモ基金」概要】

- ・基金名：泰爾茂基金（第二期）
- ・基金内容：「泰爾茂研究助成基金」と「泰爾茂奨学金」
- ・基金総額：年間40万元×3年間＝120万元
- ・運営期間：2010～2012年

テルモ体温研究所

「テルモ体温研究所※」では、テルモ創業の原点である身近な「体温」を日々の健康管理に役立てていただけるよう、専門の先生方と連携しながら調査研究や啓発活動を進めています。調査研究では、体温計測に関わる実態調査や次世代の体温測定に向けての探索や学会発表を行っています。また啓発活動では、「体温と生活リズム」をテーマに小中学校の生徒や保護者、教職員のみなさまに向けて公開授業を行っています。2011年2月には横浜市立宮谷小学校で授業を行い、生活リズムの乱れによる体温への影響や、体温の正しい測り方についてお伝えしました。文部科学省と「早寝早起き朝ごはん全国協議会」が推進するプロジェクトにも加盟し、生活習慣の改善について啓発しています。

ウェブサイトでも、発熱やその対策、熱中症、高齢者や乳幼児の体温など、さまざまな情報を発信しています。

また、2010年は、中国でも体温に関する情報の発信を開始し、日本のドクターによる講演会の開催や女性の健康ウエ

ブサイト「身体悄悄活」をオープンしました。

※ テルモ体温研究所：体温から健康を考え、体温情報の提供や新しい健康生活を提案するテルモの研究所。



子どもたちが自身が体温の変化を調べ、発表を行った公開授業

 ウェブサイト「テルモ体温研究所」

 ウェブサイト「身体悄悄活」

社会との関わり

「テルモ体温研究所」とインフルエンザ予防

「テルモ体温研究所」では、ウェブサイトを通じてインフルエンザの予防策について情報発信を行っています。季節性インフルエンザとかぜとの違い、子どもの発熱チェック&ケアについての情報や、「ワキでの検温方法」や「手洗い・うがいの仕方」を正しく伝える啓発ツールを作成し、ダウンロードできるようにしています。これらは、小中学校の先生方や企業の方などから、学校や職場内で掲示して活用したいとご要望をいただいています。「体温の測り方」は英語や中国語にも翻訳され、「体温リズムのチェックシート」等とともにPDF形式でダウンロードできるようになっています。

Web ウェブサイト「テルモ体温研究所」



正しい検温方法を啓発



ウェブサイト「テルモ体温研究所」

地域社会への貢献

ホスピスへクリスマスの贈りもの

テルモ湘南センターでは、クリスマスの約1週間前からアソシエイトが自主的にチームを組んで同センターの外壁にイルミネーションの飾りつけを行っています。また、クリスマスイブには地域とホスピスのみなさまへ打上花火を、そしてホスピスのみなさまにテルモ男声合唱団から歌声のプレゼントをお届けしました。この企画は、同センターの向かいにあるホスピスに入院されている患者さんやそのご家族、地域住民の方々にクリスマスを楽しんでいただきたいとの思いから、1997年より毎年実施しているものです。2010年は期間中、アソシエイトから提案されたトナカイなど6種類の図柄のイルミネーションを冬の夜空に演出しました。



湘南センターの外壁を利用したイルミネーションと花火



歌声を届けるテルモ男声合唱団

社会との関わり

各地域での活動

テルモでは、地域への身近な社会貢献の一環として各事業拠点でさまざまな活動を実施しています。

- ・多摩川河川敷のごみ拾い活動（毎年春と秋に実施。延べ52名参加）
 - ・湘南センター周辺のクリーンアップ活動（総勢55名参加）
 - ・甲府工場周辺のクリーンアップ活動（総勢312名参加）
 - ・富士宮工場周辺のクリーンアップ活動（総勢24名参加）
 - ・愛鷹工場、MEセンター周辺のクリーンアップ活動（延べ600名参加）
 - ・営業支店周辺のクリーンアップ活動（総勢66名参加）
- *参加者数は2010年度実績



ごみ拾い活動の様子（多摩川）



エコキャップ回収の取り組み

テルモでは、「NPO 法人エコキャップ推進協会」で実施しているエコキャップ運動に参加しています。この運動は、ペットボトルのキャップを分別し、キャップの再資源化とその売却益により発展途上国の子どもへワクチンを贈る運動です。2010年度は387人分のポリオワクチンに相当しました。



社内での取り組みの様子

献血活動

テルモでは、各事業所・支店それぞれの職場で献血を行っています。2010年度は全国32カ所の事業所、支店で計891名の協力がありました。商品の一つである献血用のバッグの生産だけではなく、実際の献血活動を通じた貢献を継続していきます。




職場における献血活動

社会との関わり

災害支援

テルモは医療機器や医薬品の不足が深刻な自然災害の被災地へ、医療機器などの物資を支援しています。

2010年度は、東日本大震災の被災地に向け、義援金や支援金の寄付と現地で緊急に必要とされる体温計や圧迫（弾性）ストッキング、栄養補助食品をはじめとした医療物資などを寄贈しました。

 [詳細リリースはこちらへ](#)



被災地に向けた医療物資などの寄贈

[支援の概要]

東日本大震災被害

義援金、支援金及び医療物資 総額2億4千万円相当を寄付

医療物資：体温計 30,000本

血圧計 4,000台

圧迫（弾性）ストッキング 13,000足

栄養補助食品 53,000個

その他（消毒液、マスクなど）

主な寄贈先：岩手県・宮城県・福島県の自治体及び看護協会、日本赤十字社、日本看護協会、日本慢性期医療協会、全国老人保健施設協会、日本チェーンドラッグストア協会など

テルモメディカル社 小児糖尿病研究財団に協賛

米国のテルモメディカル社は、「小児糖尿病研究財団（JDRF）」に協賛しています。毎年開催される糖尿病の子どもたちの健康維持に向けたウォーキング大会には、10年以上にわたり毎年参加しています。ニュージャージーオフィスのアソシエイトや家族、友人とともに「チームテルモ」を組んで、子どもたちと一緒に歩いています。



ウォーキング大会に「チームテルモ」で参加

テルモドイツ社 新興国の子どもたちを支援

テルモドイツ社は、「World Vision」というチャリティー団体のプロジェクトを通して、10年以上にわたり新興国の子どもたちの援助を行っています。このプロジェクトは、貧しい子どもたちやその家族、またその地域が持続可能な未来を築けるように支援をしています。

具体的には、子どもたちのワクチン接種やHIVへのカウンセリング、学校建設や浄水活動などを行っています。テルモドイツ社には子どもたちからお礼の手紙や絵が頻繁に届き、支援に参画していることをアソシエイト全員が実感しています。

環境にやさしい企業をめざして

「人にやさしい医療」と「環境にやさしい医療」の調和をめざすテルモは、環境基本方針や環境マネジメントシステムを整備し、地球環境との共生に積極的に取り組んでいます。



環境基本方針で環境保全の意識を共有

テルモは「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念に基づき、1999年に「環境基本方針」を制定しました。この方針のもと、医療分野のリーディング企業として地球環境の保全に取り組んでいます。地球環境を守ることがテルモの事業活動の前提であり、グループ全体で推進しています。

環境基本方針

私たちテルモグループは、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」のもと、医療の安全と安心を提供することを基本に、リーディング企業として責任ある環境保全活動を展開し、信頼される企業市民をめざします。

- 自主的な目標を設定し、環境保全活動に努めます。
 - ・事業が環境へ与える影響の把握
 - ・エネルギーや資源の有効活用
 - ・環境に配慮した商品開発
 - ・廃棄物の削減など
 - ・環境汚染の予防
- 各国の環境保全に関する法律、条例、協定等を遵守します。
- 環境保全に関する推進体制を設け、推進・監査に努めます。
- 社会や地域の一員として環境保全活動への支援、協力に努めます。
- 社内広報活動や教育を行い、社員の環境保全に関する意識の向上に努めます。

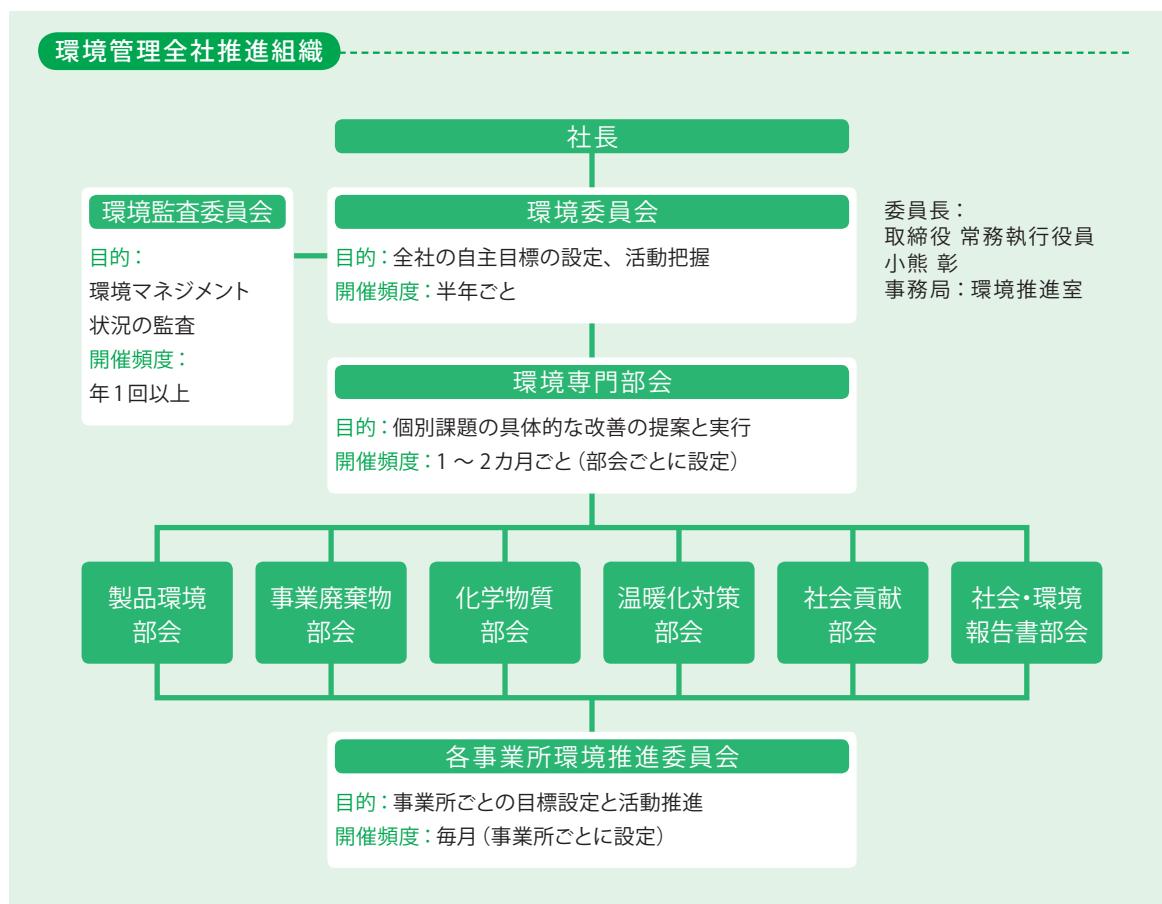
制定 1999年12月

環境との関わり

環境マネジメントシステムを整備

効率的で実効性のある環境マネジメントシステムを構築し、PDCAサイクル※を活用して環境パフォーマンスの向上に取り組んでいます。環境管理の最高決定機関である「環境委員会」は、全社における環境保全の施策や目標を設定し、活動状況の把握などを半期ごとに行っています。また、「環境監査委員会」は、各事業所に対して内部監査を行い、システムの有効性や運営状況を確認。その活動内容は毎年公表し、透明性の高い経営・組織体制の維持に努めています。

※ PDCAサイクル：Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Act（改善）の4つのプロセスを反復させ、継続的な業務改善を図るマネジメントサイクル。



環境との関わり

アソシエイト向け環境研修

環境基本方針やテルモの一員として行うべき環境活動への理解を深めるため、新入社員研修をはじめ、営業拠点や工場などそれぞれの業務内容の特性に合わせた環境教育を実施しています。また「良き企業市民」として環境意識の向上と実行を目的に、社内イントラネットでの環境情報の配信や家族を含めて参加できるエコキャンペーンを実施しています。



アソシエイト向け研修

環境意識を高める環境掲示板

環境情報の共有と事業所での環境活動の促進を目的に、各事業所で環境掲示板を設置しています。掲示板には、事業所でのエネルギーや二酸化炭素排出量推移、廃棄物排出状況などの掲示とともに、事業所の特性に合った情報を提供することでアソシエイトの環境意識の向上に役立てています。

VOICE

本社推進メンバーの声

本社では、事業所全体のエネルギー消費量、コピー用紙の使用量推移などのグラフを掲示し、月に1回更新しています。また、業務改善によって効率化できた時間をイラストで「見える化」するなど、みんなで取り組める事例を紹介し、事業所全体の習慣づくりにつなげています。2009年度からは「時間」を意識した業務効率化を進めることで、早帰りデーが定着し、照明やエアコンの節電効果も一段とアップしました。一人ひとりがちょっとした行動や習慣を変えることにより、エコロジーにも貢献できると実感しています。



本社推進メンバー

環境に配慮した商品

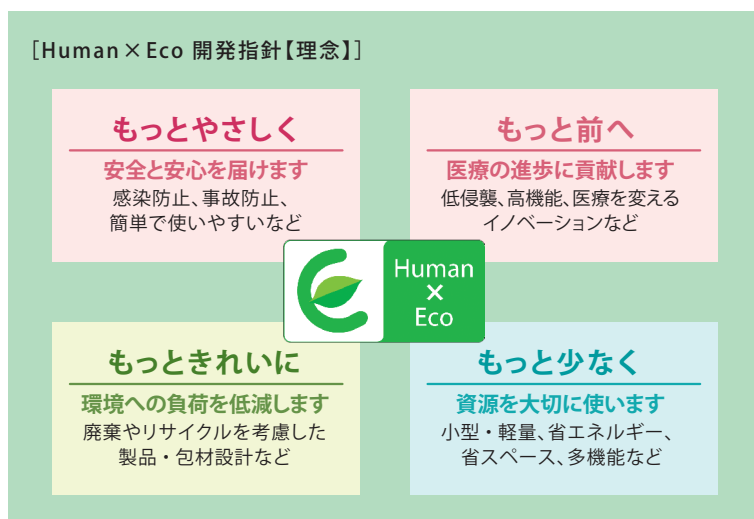
「人にやさしく、環境にもやさしい医療」の実現をめざし、医療従事者や患者さん、そして地球環境にもやさしい製品の開発に取り組んでいます。これからも商品を通して社会のニーズと地球環境に貢献していきます。

Human × Eco® (ヒューマン・バイ・エコ) 開発指針

テルモは企業ビジョンとして「人にやさしい医療」の実現をめざして取り組んでいます。「人 (Human) にやさしい医療」とは、患者さんの身体への負担を少なくする、感染を防ぐ、医療従事者が使いやすいなど、医療の安全性・効率性を高めていくことです。

このことは同時に「環境 (Eco) にやさしい医療」にもつながります。ひとたび感染や医療事故が起これば、その対応に本来は必要のない医療資源が使われることとなります。安全で効率性の高い製品を開発することは、医療現場におけるEcoへの貢献でもあると、私たちは考えています。

テルモでは、人にも環境にもやさしい製品開発を進めるための独自の基準「Human × Eco 開発指針」を策定し、製品の開発にこの基準を適用しています。特に優れた商品には、自社認定マーク(「Human × Eco」マーク)の表示をすることで、お客様にも分かりやすくお伝えしています。



有害物質対策

脱水銀の先駆けとして

テルモは1983年に、国産初の予測式電子体温計を発売しました。翌年、環境面に配慮し、水銀体温計の生産をいち早く終了しました。その後も水銀を使わない電子血圧計を発売するなど、さらなる脱水銀化に努めています。



電子体温計



電子血圧計

環境との関わり

水銀条約国際会議で電子体温計・血圧計を展示

「水銀に関する条約の制定に向けた政府間交渉委員会第2回会合（INC2）」が2011年1月に幕張メッセ国際会議場で開催され電子体温計・血圧計の展示を行いました。INC2とは、人の健康や生態系に被害をもたらす水銀の排出を、地球規模で削減するための新条約制定に向けた国連環境計画の第2回政府間交渉委員会会合です。展示ブースでは、脱水銀をはじめとしたテルモの環境への取り組みとともに、電子体温計・血圧計の紹介を行いました。



展示の様子

カーボンフットプリント（CFP）への取り組み

製品のライフサイクル全体の環境負荷を評価し製品開発につなげることを目的に、2009年度より経済産業省のCFP制度試行事業に参加しています。カーボンフットプリントとは、商品・サービスの原材料調達から生産、流通、使用・維持管理、廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出

量をCO₂量に換算して表示（見える化）する取り組みです。試行事業では、電子体温計についてCFPを算定・表示するための算定基準を作成し認定を受けました。今後、各ライフサイクルでのCO₂排出量を把握することで環境配慮製品の開発につなげていきます。

脱塩ビとDEHP可塑剤フリーを推進

焼却時に有害ガスが発生するとされる塩化ビニル（PVC）や、毒性の影響が指摘されている可塑剤（DEHP）を使わない商品を提供（代替が可能な場合のみ）しており、包装においても不使用を進めています。



輸液セット



輸液剤バッグ



人工心肺回路

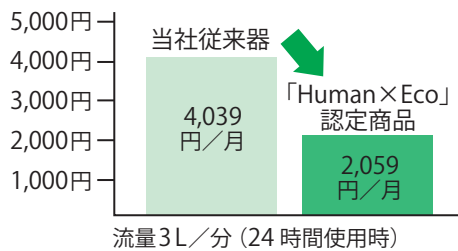
環境との関わり

省電力

小型軽量化、省電力を実現した酸素濃縮装置

当社従来器に比べ30%以上軽量化。流量に合わせてコンプレッサーの動きを細かく制御することで使用電力を削減。また内蔵バッテリーを搭載しており、停電時や災害時にも安心です。万が一の火災発生時の延燃を防ぐ「酸素出口加熱検知機能」を搭載しています。

【1カ月あたりの電気代負担比較（3L/分の場合）】



*新電力料金目安単価22円/kWh（税込）で計算。



酸素濃縮装置「Human×Eco」認定商品

省資源／ゴミ削減

柔軟性・携帯性 ～世界100カ国に広がる血液バッグ

輸血の安全性向上をめざし、1969年に国産初の血液バッグを販売。採血チューブと容器を一体化したプラスチック製のバッグは、ガラスよりも柔軟性と携帯性に優れ輸送時のコストが減り、廃棄容量も削減できます。



血液バッグ

幅広いタイプの治療に対応 ～ PTCA用バルーンカテーテル[※]

素材やバルーンのたたみ方などを改良し、幅広いタイプの治療に対応できるPTCA用バルーンカテーテルを開発。一人の患者さんに少ない本数で治療することが可能となり、省資源化に貢献しています。

※ PTCA用バルーンカテーテル：カテーテルの先端に装備したバルーン（風船）を膨らませて血管を押し広げ、狭まった血液の通路を拡張するために使用する医療機器。



PTCA用バルーンカテーテル

環境との関わり

■ 軽量・小型化 ～できることから実践

シリンジの容量・機能性はそのままに、小型・軽量化。廃棄時の重量で25%減を実現しています。また、小型化することで輸送時のコスト／ゴミの排出量を削減(1998年当時)。さらに、在宅医療で使う腹膜透析液バッグでは、家庭での廃棄物削減を考慮して40%減の軽量化を実現しています。



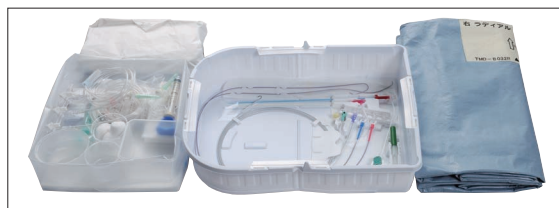
シリンジ



腹膜透析液バッグ

■ パッケージ化と廃棄重量・容量削減

手術に必要な商品一式をパッケージ化したソリューションパック。包装資材の重複や管理の無駄をなくしました。また、常にパッケージの方法や形状などを工夫、トレイの形状変更で廃棄時のかさを小さく(当社従来品比約53%削減)するなど、さらなる廃棄重量・容量の削減を実現しています。



血管造影キット「Human×Eco」認定商品

■ 一体化 ～水分調整の手間を省く、とろみ付き栄養食品

水分や粘度の調整に使用していた栄養ボトルが不要となり、ボトル洗浄時の環境汚染や廃棄物を削減することが可能となりました。また、水と「とろみ栄養」を一つにすることで、医療従事者や介護者の負担を軽減しました。



とろみ付き栄養食品
「Human×Eco」認定商品

■ 一体化 ～複数の薬剤をワンバッグに

使用前に混注が必要な輸液剤をワンバッグ化。複数のものを一体化することで、包装や混注時に使用するバイアル瓶・注射器などのゴミを削減できました。



輸液バッグ

環境との関わり

■ 一体化 ～プレフィルドシリンジ

吸引・溶解などの作業が必要なアンプルやバイアルに対して、あらかじめ注射器に薬剤を充填したプレフィルドシリンジ。プラスチック製なのでガラスに比べ重量・容積面など、廃棄性にも優れています。



プレフィルドシリンジ製剤

■ 一体化 ～動脈フィルター一体型人工肺


人工肺と動脈フィルターを一体化したことで、血液回路の部品点数及び原材料を削減しました。



人工肺

地球温暖化防止

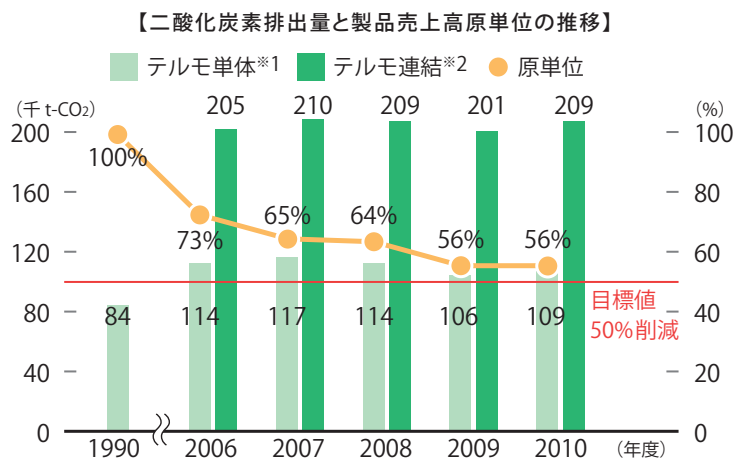
地球環境を守ることがテルモの事業活動の前提です。
 テルモでは事業所での省エネルギー活動に加えて、「チャレンジ25キャンペーン」への参加など
 全員参加型のエコ活動を行い、二酸化炭素排出量の削減を推進しています。
 また、電力使用について、節電対策と電力の見える化に取り組んでいます。

 今夏の節電と、電力の見える化の取り組みについて

二酸化炭素排出量削減目標

テルモでは、2012年度までに二酸化炭素排出量を製品売上高原単位で1990年度比50%削減*という目標を掲げて、地球温暖化防止に取り組んでいます。

※ テルモ単体（海外営業拠点を除く）



※1 海外営業拠点を除く

※2 海外営業拠点、海外マーケティング拠点を除く

二酸化炭素排出量の削減に向けた取り組み

テルモでは、地球温暖化防止及び二酸化炭素排出量削減目標達成のために、生産拠点での二酸化炭素排出量の少ない「ガス」から「電気」へのエネルギー転換の推進や、蒸気などの熱源の無駄の見直しなどの取り組みを推進してきました。また、オフィスや営業車も含め会社全体で地球温暖化防止に向けた取り組みを行うことで、低炭素社会の実現に向けて貢献していきます。

環境との関わり

工場での省エネルギーの取り組み

甲府工場の取り組み

甲府工場では、高効率設備の導入や冷水配管連結、冷凍機・冷水ポンプの運転パターン最適化の検討など熱源システムの最適制御を意識した取り組みを行っています。また、全員参加による省エネルギー活動を行い、工程でのエネルギーロスの改善など事業所全体で継続的な活動を行っています。

こうした取り組みが評価され、2010年度「関東地区電気使用合理化委員会委員長賞」の最優秀賞を受賞しました。



表彰式の様子

富士宮工場の取り組み

富士宮工場では、高効率設備などの省エネ設備の導入に加え、自然エネルギーの利用について検討を行い、新生産棟建設に合わせ壁面に15kWの太陽光パネルを設置しました。また新棟併設の街路灯に、太陽光と風力を動力源とするハイブリッドタイプの街路灯を導入しました。今後も自然エネルギーの導入を積極的に行っていきます。



新生産棟に設置した太陽光パネル

テルモヨーロッパ社の取り組み

テルモヨーロッパ社では省エネルギーに関するプロジェクトを結成し、事業所全体で省エネルギー活動に取り組んでいます。例えば、クリーンルームでは高効率蛍光灯や人感センサーの設置、外気導入量の抑制の工夫などを行っています。また成形機の動力の電化や、吸気弁を使用しない冷暖房空調設備用の換気装置の導入など、事業所一体となって省エネルギー・地球温暖化防止活動に取り組んでいます。

 [ウェブサイト「テルモヨーロッパ社」](#)



省エネに配慮したクリーンルーム

環境との関わり

テルモフィリピンズ社の取り組み

テルモフィリピンズ社では、工場内の動力装置やコンプレッサ、空調機などにインバータを設置しエネルギーを無駄なく効率的に使用することで、工場内の省エネを進めています。また、コンデンサバンクの力率を個別に調整することができる分割タイプの変流器の導入や、動作プログラムの見直しなどを行うことで力率の改善を図るなど、さまざまな工夫をしながら地球温暖化防止に向けた取り組みを行っています。



力率改善のための分割型変流器の導入

オフィスでの身近なエコ活動

国内オフィスの取り組み

国内オフィスでは、各拠点でエネルギー削減目標を設定し、エコ活動に取り組んでいます。「電気をこまめに消す」、「エアコンの設定温度の見直し」、「ゴミの分別を徹底し、資源の有効活用化を図る」など、オフィスの全員が参加できる活動を推進しています。



環境掲示板

営業車でエコドライブに挑戦

テルモでは営業車のエコドライブを推進しています。やさしい発進を心がける、エアコンの使用を控えるにする、不要な荷物は積まないようにするなどの、環境にやさしい運転に加え、低燃費、低排出ガスのエコカーへの切り替えを積極的に進めています。

今後も、政府の推進する「チャレンジ25キャンペーン」の趣旨にのっとり、営業車だけではなく、マイカーでのエコドライブも継続して推進していきます。



エコドライブで営業中

環境との関わり

物流の環境負荷低減の取り組み

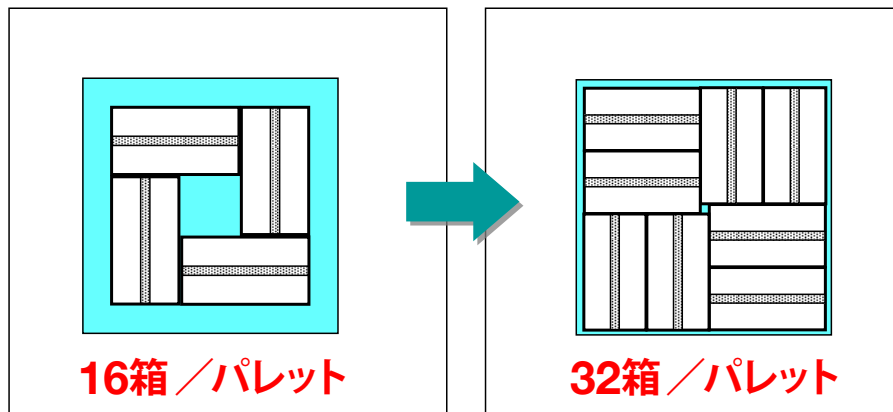
商品を輸送する際に使用されるエネルギーの削減は、地球温暖化防止の重要なテーマです。

テルモでは、輸送効率の高い委託輸送や海上輸送などのモーダルシフトによるエネルギー使用量の削減や、物流拠点の統廃合など、物流を効率的にする取り組みを行っています。2006年度から物流環境負荷データの把握を開始し、環境負荷低減を進めるために、トラック輸送から海上輸送への切り替えや配送車両の積載効率向上など、荷主として効率的な物流インフラ整備に努め、排出削減に取り組んでいます。

プレフィルドシリンジ製剤の輸送・保管効率向上


医薬品の個装箱は、改ざん防止のため封かんテープを剥がさずに底部などより商品が容易に取り出せない構造が求められます。以前は、箱の底フラップが底部を全面に覆う構造を採用していましたが、新たな改ざん防止構造を開発することで個装箱及び出荷箱の小型化を実現しました。これにより紙資源の有効利用とともに、輸送効率が向上し輸送におけるCO₂の削減と商品の保管スペースの削減が可能になりました。

【パレット積み付け効率の向上（プレフィルドシリンジ製剤の一例）】



「チャレンジ25キャンペーン」に参加

テルモは、政府が主催する「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、地球温暖化防止に向けた取り組みを推進しています。「チャレンジ25キャンペーン」では、オフィスや家庭などにおいて実践できるCO₂削減に向けた具体的な行動を「6つのチャレンジ」として提案し、その行動の実践を広く国民に呼びかけています。テルモはこの趣旨に賛同し、オフィスや家庭での地球温暖化防止活動を推進しています。

 [ウェブサイト「チャレンジ25キャンペーン」](#)

チャレンジ
25
未来が変わる。
日本が変える。

環境との関わり

生物多様性保全の取り組み

テルモでは、生物多様性保全に取り組んでおり、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

富士山森づくり

テルモは静岡県富士宮市に二つの工場を有し、富士山麓から湧き出る地下水を利用して医療機器や医薬品などの生産をしています。自然の恵みを利用して事業を行う企業として、2003年から、台風によって倒壊の被害を受けた富士山の森林を、郷土樹種によって、災害に強く地下水の源となる自然林に再生する活動「テルモ富士山森づくり」を、NPO法人「富士山自然の森づくり」と共催で行っています。

2010年度は、グループ会社も含め、総勢150名のアソシエイトとその家族が参加しボランティアで植林を実施しました。



アソシエイトがボランティアで森づくりに参加

アソシエイトが自主的に取り組む「ECOチャレンジ」

アソシエイトとその家族が、オフィスや家庭でエコ活動に挑戦する「ECOチャレンジ」キャンペーンを、毎年夏の期間に実施しています。2010年度は2,419名が参加し、身近なエコに取り組みました。また、参加者の取り組みをポイント化し、ポイントに応じて「公益財団法人 オイスカ」の「子供の森」計画に寄付しています。寄付金は海外の子どもたちの環境教育や、苗木を植えて育てていく森づくり活動のために使用されます。



「子供の森」計画（フィリピンの子どもたち）

「緑の地球を世界の子どもたちとともに」

「子供の森」計画は、子どもたちの「自然を愛し、大切にする気持ち」を育みながら、地球の緑化を進めていくプログラムです。

テルモ様にはフィリピンでの活動を支援いただいております。森の大切さを理解し、ふるさとの森を苗から育て未来へ向けて守っていくことのできる子どもたちを多く育てています。

公益財団法人 オイスカ 国際協力部「子供の森」計画 担当 高田 絵美 様



Web ウェブサイト「公益財団法人 オイスカ」

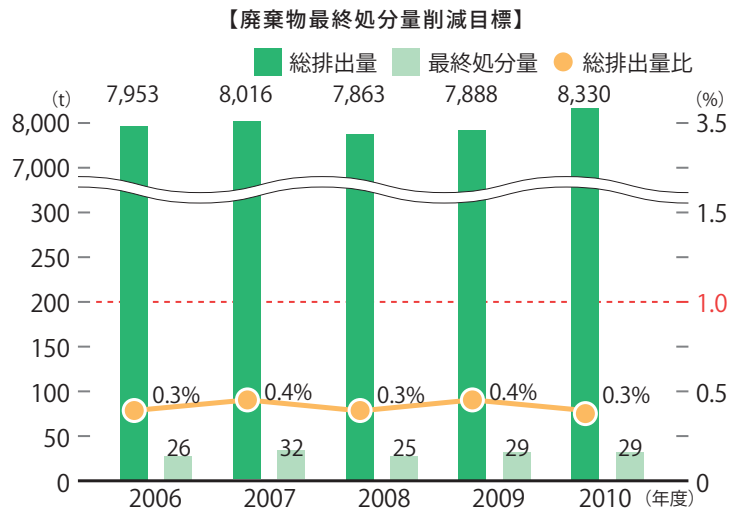
資源の有効活用

テルモの事業活動は、地球の限りある資源を活用することで成り立っています。テルモでは、アソシエイト全員参加型の活動で、廃棄物の削減や資材の有効利用、リサイクルの向上など資源の有効利用に取り組んでいます。

廃棄物の最終処分量削減に向けて

工場や研究開発、オフィスでの事業活動では、さまざまな廃棄物が発生します。テルモは、「営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量（埋立量）を廃棄物等総排出量の1%未満にする」というゼロ・エミッションを掲げ、分別廃棄の徹底や廃棄方法・廃棄ルールを工夫しています。2010年度の廃棄物最終処分量は廃棄物等総排出量の0.3%となり、7年連続でゼロ・エミッションを達成しました。

廃棄物最終処分量削減目標 営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を、廃棄物等総排出量比1%未満にする
＝ゼロ・エミッションの継続



環境との関わり

包装材削減に向けた取り組み

テルモでは、容器包装の機能を損なわずに、資源の有効利用とお客様の使い勝手向上を目的に容器包装の小型・軽量化や薄肉化、また形状の見直しなど包装材削減に向けた取り組みを行っています。

濃厚流動食の輸送箱廃止

濃厚流動食において、流通上の無駄に着目し輸送包装の見直しを行いました。以前は、複数の製品箱を輸送用段ボール箱に梱包して輸送していたため、流通過程で輸送箱が廃材となっていました。この二重梱包の必要性を再検証し、輸送箱をなくすことにより紙使用量を50%削減するとともに、お客様の梱包廃材削減と開梱の手間も省くことができました。



輸送箱の廃止（赤枠内の梱包を廃止）

電子体温計の中箱廃止

女性体温計において、製品保護のため中箱と外箱の二重梱包をしていましたが、機能性を損なわず無駄の少ないシンプルな包装を目的に包装設計を行い、中箱の省略を実現しました。これにより紙使用量を5%削減することができました。また中箱をなくしたことで、お客様の廃棄物削減とともに開梱作業が1回で済むようになりました。



見直し前



見直し後

VOICE

工場、開発、物流、販売部門をまたいで結成した社内横断プロジェクトにより、容器包装の機能を維持しながら、お客様の利便性と資源の有効利用を目的に全社で容器包装削減に向けた検討を行っています。

今後も「人にやさしく、環境にもやさしい医療」の実現に向けて包装材の削減に取り組んでいきます。

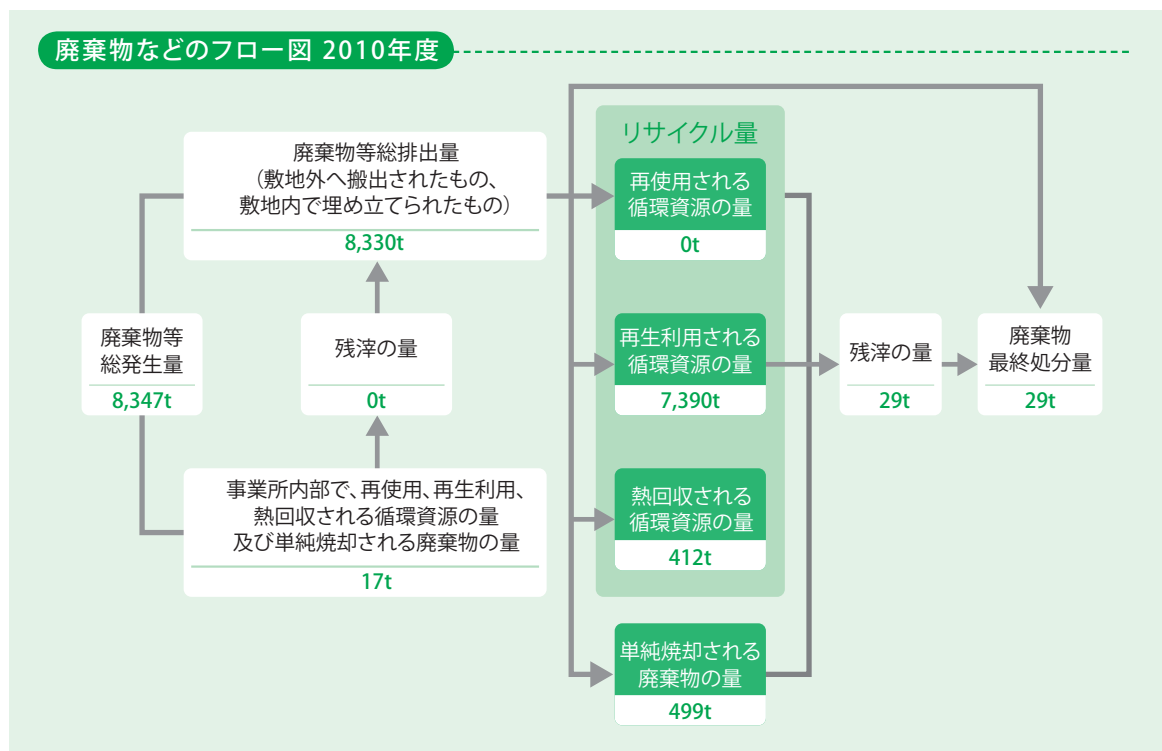


テルモ株式会社 包装技術担当

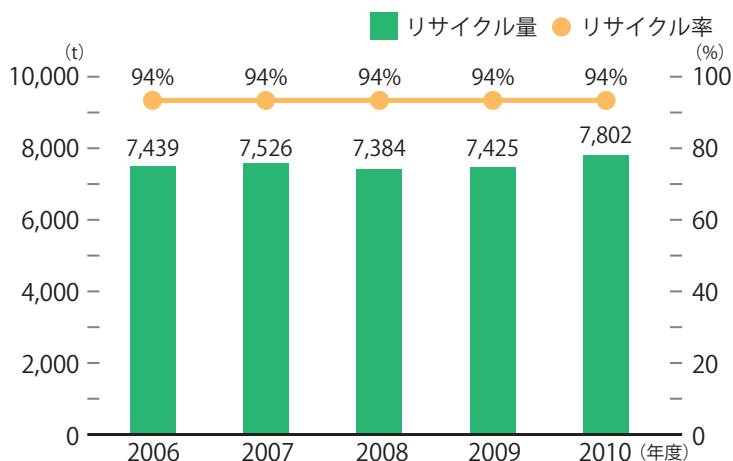
環境との関わり

リサイクルの促進に向けた取り組み

環境専門部会の事業廃棄物部会を通して事業所間で情報を共有し、アソシエイト全員がリサイクルに努めています。製品の安全性の観点から、廃棄物の社内での再生利用（マテリアルリサイクル）は困難ですが、製造工程やオフィスでの事業活動で発生するさまざまな廃棄物を分別し、リサイクル会社の協力により、床タイルなどの他のプラスチック製品や、RPF（固形燃料）、有機肥料などにリサイクルしています。2010年度のリサイクル率は94%に達しています。




【リサイクル量とリサイクル率の推移】



環境との関わり

■ バスケテック社の取り組み

英国にある子会社のバスケテック社では事業所内で発生する廃棄物を適切に分別し、リサイクル業者へ委託するなど資源の有効利用に取り組んでいます。また工程で使用する有機溶剤のIPA（イソプロピルアルコール）の蒸留装置を導入し、IPAの90%を回収し再使用しています。今後も資源の有効利用に向けた取り組みを継続していきます。


 [ウェブサイト「バスケテック社」](#)



IPA蒸留装置

■ 小型充電式電池のリサイクルに対する取り組み

資源有効利用促進法に基づき、継続して小型充電式電池のリサイクルを実施しています。テルモの商品で発生した使用済み小型充電式電池は、小型充電式電池のリサイクルを推進している一般社団法人JBRCにより、回収・リサイクルされています。また、商品廃棄の際に分別しやすいように、リサイクルマークを表示するなどの工夫をしています。小型シール鉛蓄電池についても、メンテナンスによる電池交換の際に回収・リサイクルをしています。

 [ウェブサイト「一般社団法人JBRC」](#)



■ 2010年度回収・リサイクル実績(期間:2010年4月～2011年3月)

(単位: kg)

ニカド電池	ニッケル水素電池	リチウムイオン電池	小型シール鉛蓄電池
4,220	444	10	462

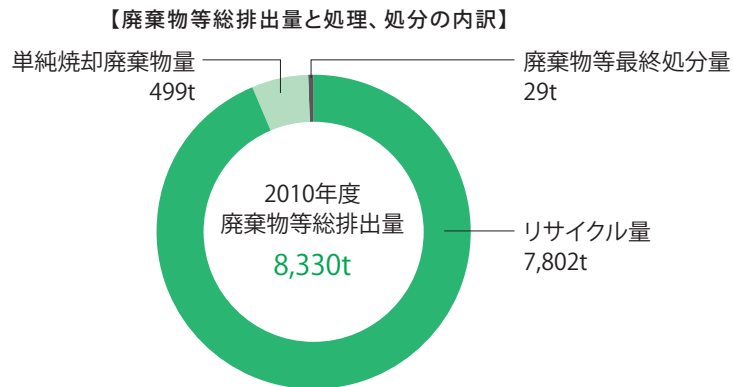
環境との関わり

廃棄物処理委託先の監査

テルモから排出した汚泥やプラスチック類の廃棄物が、最後まで適正に処理されているかを確認するため、チェックリストを作成し、計画的に廃棄物の収集運搬委託先・処理委託先を監査しています。2010年度は26カ所の委託先について監査を行いました。



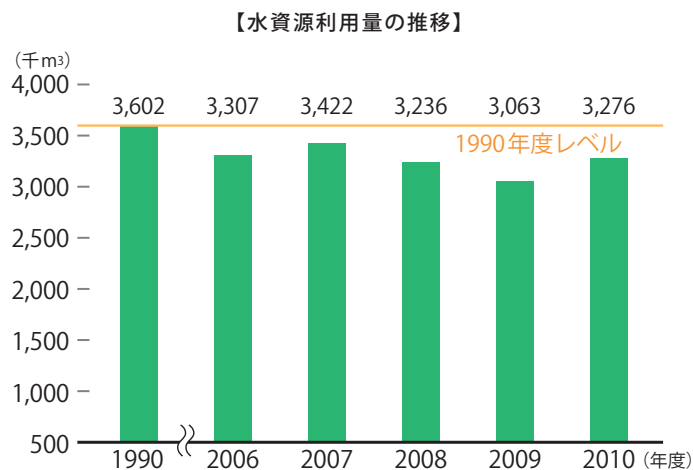
現場監査の様子



水資源の有効利用

テルモでは、水資源有効利用のために冷却水の循環利用、水資源使用の最適化を行っています。今後も引き続き生産量の増加を見込んでいますが、水資源利用量が1990年度レベルを超えないよう維持していきます。

水資源利用上限目標 水資源利用量を1990年度レベル以下に維持



化学物質管理

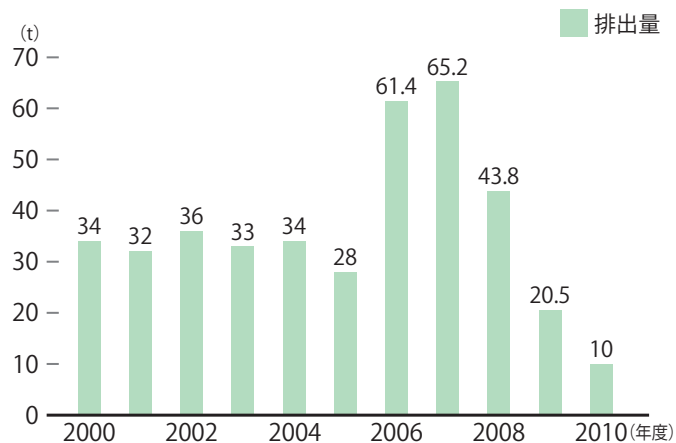
テルモでは、「自主的な目標を設定し、環境保全活動に努めます」と、環境基本方針で定めています。
厳しい自主管理目標に基づいて化学物質の把握・管理を行っています。

化学物質管理を徹底させるために

HCFC-141bの代替

モントリオール議定書を背景に日本国内では2010年からHCFC-141bの生産が禁止になりました。テルモでは2005年から化学物質部会の中に各工場の担当で構成されるHCFC連絡会を組織して各事業所で使用しているHCFC-141bの代替のため、使用工程のリスタップ、代替品の情報共有、各事業所での検討結果の共有を行って、HCFC-141bの代替を進めてきました。2009年末に代替品への変更設定を終了し、購入済みの141b含有資材の在庫消化に入っています。一部使用量の少ない用途で在庫消化が継続するものの、今後141b排出量は徐々に減少し、最終的に0になる予定です。

【HCFC-141b排出量の推移】

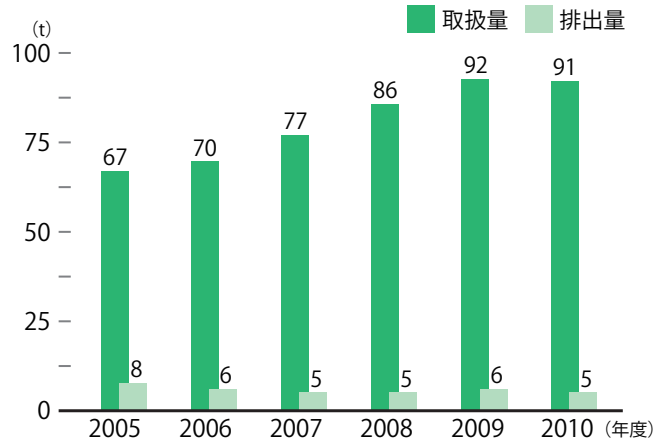


環境との関わり

愛鷹工場でエチレンオキシド排ガス処理装置増設

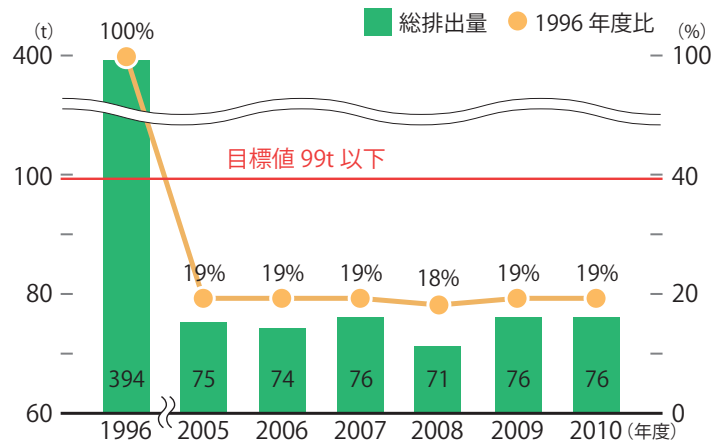
エチレンオキシドは、医療機器の滅菌に広く使用されています。2010年度は、愛鷹工場に低濃度の排ガスまで無害化できる触媒酸化式排ガス処理装置の増設を行いました。既存装置と合わせさらなる排出削減を行い、排出量を低く抑えることと取扱工程の作業環境改善をめざします。触媒酸化式排ガス処理装置はすでに富士宮工場、湘南センターにおいても稼働中です。また、エチレンオキシド滅菌の代替も進めています。

【エチレンオキシドの取扱量・排出量推移】



化学物質排出削減目標 ジクロロメタンの排出量を99t以下

【ジクロロメタンの排出量推移】



環境との関わり

【PRTR※1対象物質及び自主管理物質】

(単位:t)

化学物質名	量	富士宮工場	愛鷹工場	甲府工場	研究開発	合計
エチレンオキシド	取扱量	16.3	55.5	19.1	0.1	91
	排出量	0.8	2.8	1.7	0	5.3
	移動量	0	0	0	0	0
1・2ジクロロエタン	取扱量	0	2.8	0	0	2.8
	排出量	0	2.4	0	0	2.4
	移動量	0	0.4	0	0	0.4
HCFC-225※2	取扱量	11.1	28.3	15.3	0	54.7
	排出量	7.9	22.1	13.5	0	43.5
	移動量	0.1	1.2	0	0	1.3
ジクロロメタン	取扱量	0.2	7.2	168.5	0.2	176.1
	排出量	0.2	1.9	73.8	0	75.9
	移動量	0	5.3	0	0.2	5.5
トルエン	取扱量	0.8	0	13.2	5.3	19.3
	排出量	0.6	0	10.9	0	11.5
	移動量	0.2	0	2.4	2.9	5.5
フタル酸ジ (2-エチルヘキシル)	取扱量	676.6	3	132.4	0	812
	排出量	0	0	0	0	0
	移動量	0	0	2.7	0	2.7
ふっ化水素および その水溶性塩	取扱量	0	12.3	0.1	0	12.4
	排出量	0	0.9	0	0	0.9
	移動量	0	0	0	0	0
1-ブロモプロパン	取扱量	0	0	1.8	0	1.8
	排出量	0	0	0.7	0	0.7
	移動量	0	0	1.1	0	1.1
モルホリン	取扱量	0	0	1.6	0	1.6
	排出量	0	0	1.6	0	1.6
	移動量	0	0	0	0	0
テトラヒドロフラン THF (自主管理物質)	取扱量	7	21.4	3.5	0	31.9
	排出量	5.7	19.6	3.5	0	28.8
	移動量	1.3	0	0	0	1.3

※1 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度)の略。

※2 HCFC-141bの代替を進めています。そのためオゾン層破壊係数の低いHCFC-225の取扱量が若干増加しました。

PCBの適正な処分に向けて

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、PCB※を使用したトランス、蛍光灯安定器などはすべて取り外しました。速やかに適正な処分ができるよう、日本環境安全事業(株)豊田事業所への早期登録も完了しています。

また、今年度の本社社屋解体に伴い新たに発生した微量PCB混入重電機器(高圧トランス)については、処理が完了するまでの間、適用法令に従った届出と保管を行っています。

※ PCB: polychlorinated biphenylの略。ポリ塩化ビフェニル。

グリーン購入の推進

テルモでは、「自主的な目標を設定し、環境保全活動に努めます」と環境基本方針で定めています。
製造工程やオフィスでの事務用品、その他の備品の購入に関するガイドラインを設定し、
グリーン購入を実施しています。

グリーン調達

各国化学物質規制 (REACHなど) への対応

テルモでは急速に厳格化が進む各国化学物質規制に対し、関連部署と連携して対応を進める体制を構築しています。

1. 法規制情報の収集

化学物質規制が最も先行している欧州からは、現地法人が定期的に環境規制に関する情報を提供し、報告を受けた関連部署からも環境関連情報を抽出して環境推進室へ情報のインプットが行われます。また、環境関連の業界団体の窓口も環境推進室が対応しており、外部情報は環境推進室に集約されます。このような体制をとることで、次の調査段階での調査漏れを防ぐよう努めています。

2. 設計段階での確認／調達先調査

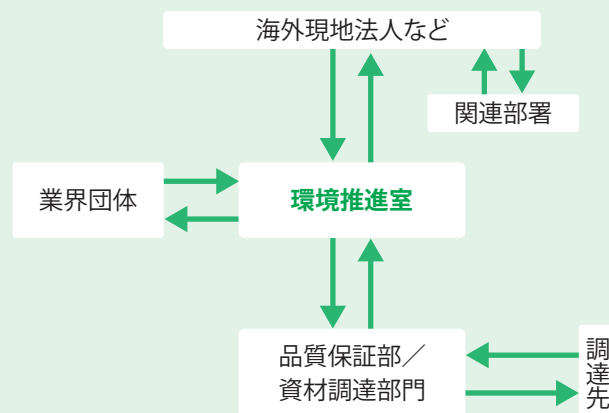
製品設計の段階で法規制対象物質をあらかじめ設計担当者に提示し、設計段階で環境汚染物質等の使用を極力避ける配慮が行われます。設計担当者への意識づけを行うツールとして「Human × Eco 開発指針」を利用しています。

同時に、調達資材についての規制物質の含有調査を品質保証部と資材調達部門とが協力して実施しています。調査は製品品質上必要な調査項目を含め、さまざまな目的での原材料調査を一括して行います。調査の回答が得られると、品質保証部にてデータベース化を行い、必要ときに速やかにデータを活用できる状態に保ちます。

3. 現地へのフィードバック

現地での法規制に対応するため、環境推進室から現地法人及び関連部署に対しフィードバックを行います。

各国化学物質規制対応フロー図



環境との関わり

グリーン購入の実施

工場やオフィスでの事務用品、その他の備品に関するガイドラインを設定した上で、グリーン購入を実施しています。今後もグリーン購入を継続し、環境保全への取り組みを強化していきます。

【2010年度 グリーン購入実績】

(単位 数量:千個、金額:千円)

		全体	環境配慮	
本社／営業	数量	30	15	50%
	金額	30,044	17,823	59%
工場	数量	35	22	64%
	金額	17,169	12,845	75%
全社	数量	64	37	57%
	金額	47,213	30,669	65%

* 上記実績は現行のグリーン購入法適合商品、エコマーク等の表示に基づいて算出しています。

環境監査の実施

テルモでは、環境基本方針で定めている通り、法令違反や環境問題の発生を未然に防止するための内部環境監査を、継続して実施しています。

2010年度の内部環境監査実施状況

法令違反や環境問題の未然防止、現在から将来における環境リスクを低減させることを目的として、国内工場・湘南センター・本社・営業拠点及び海外事業所を含めたテルモグループの内部環境監査を実施しています。

監査項目

1. 環境関連適用法令の明確化と遵法性確認
2. 環境リスク項目の管理状況とパフォーマンス確認
 - ・環境管理組織の運営状況
 - ・廃棄物管理状況と関連リスクの管理状況
 - ・エネルギー管理と省エネルギーへの取り組みと実績
 - ・化学物質の管理状況と関連リスクの管理状況

内部監査結果

環境関連法令の遵守については、重大な不適合はなく、環境リスクに対する管理システムが整備されていました。



愛鷹工場内部環境監査の様子



テルモヨーロッパ社内部環境監査の様子

環境との関わり

2010年度の外部立入調査結果

外部立入調査結果

2010年度における環境関連の外部（行政当局）立入調査は、経済産業省による省エネルギー法に基づく調査、特定建築物の衛生管理状況に関する調査、工場排水の採水検査が実施されました。いずれも指導事項はありませんでした。



経済産業省立入調査の様子

事業活動・物質フロー

エネルギーや原材料などのインプットに対し、生産活動の過程で二酸化炭素や排水、廃棄物などがアウトプットされるという環境負荷を把握し、それらの数値を指標とすることで、環境負荷の低減に取り組んでいます。



* 事業活動・物質フローの集計範囲は、テルモ株式会社の国内事業所が対象です。

* 物流におけるNOx排出量は、環境省「環境活動評価プログラム（2002年4月）」の係数を用いて算出しています。

サイトデータ

テルモは、資源の有効利用とともに環境負荷物質の排出削減のため日々努力しています。
 サイトデータでは、2010年度の国内及び海外の生産事業所の環境負荷データを報告します。

事業所	所在地	CO ₂ 総排出量 (千t-CO ₂)	水使用量 (千m ³)	廃棄物等 総排出量 (t)	特別管理 廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)
富士宮工場	静岡県富士宮市	37.3	1,599	2,930	11	2,902
愛鷹工場	静岡県富士宮市	15.6	503	1,365	168	1,179
甲府工場	山梨県中巨摩郡	46.9	1,056	3,692	54	3,475
研究開発センター	神奈川県足柄上郡	7.3	97	203	53	154
幡ヶ谷本社	東京都渋谷区	0.2	2.5	55	1	42
株式会社医器研	埼玉県狭山市	0.1	1	13	0	7
テルモ・ クリニカルサプライ 株式会社	岐阜県 各務原市	1	6	48	0	35
テルモ メディカル社 TCVS社	アメリカ メリーランド州	17.1	50	531	100	149
TCVS社	アメリカ ミシガン州	2	15	735	16	277
TCVS社	アメリカ マサチューセッツ州	0.5	1	166	—	99
マイクロ ベンション社	アメリカ カリフォルニア州	1.1	6	23	11	—
テルモ ヨーロッパ社	ベルギー ルーバン	17.9	59	1,153	195	511
テルモ ヨーロッパ社UK工場	イギリス リバプール	0.04	0.5	81	0	76
バスケテック社	イギリス グラスゴー	1.8	15	122	10	35
泰爾茂医療産品 (杭州)有限公司	中国 浙江省	29	508	261	37	175
長春泰爾茂 医用器具有限公司	中国 吉林省	5.1	41	216	0	201
テルモ フィリピンズ社	フィリピン マニラ	18.6	139	779	36	714
テルモ ペンポール社	インド ケララ州	4.8	41	503	2	493
テルモ ベトナム社	ベトナム ビンフック省	2.8	72	96	0	50

* TCVS社：テルモカーディオバスキュラーシステムズ社の略称。

* 廃棄物密度は、一般/産業廃棄物を0.2t/m³、有害廃棄物を1.0t/m³として算出しています。

取り組みの歴史

環境への取り組みの歴史

1971(昭和46)年	愛鷹工場に環境管理室を設置
1972(昭和47)年	愛鷹工場で、沈降式からキレート吸着式水銀排水処理施設に変更
1975(昭和50)年	富士宮工場で、総合排水処理施設を設置
1976(昭和51)年	注射針ハブ(針の根元部分)の、酸による表面処理を廃止。酸廃液が生じないプラズマ処理に変更 富士宮工場・愛鷹工場が、富士宮市と公害防止協定を締結
1979(昭和54)年	富士宮工場で、ボイラー燃料を重油から硫黄分の少ないLPGへ変更
1980(昭和55)年	シリンジ(注射筒)のガスケットを、ゴムから熱可塑性エラストマーへ変更 焼却時の硫黄酸化物発生を防止 愛鷹工場に総合排水処理施設設置
1981(昭和56)年	輸液剤容器(テルパック)を脱塩ビ化。焼却時に有害ガスを発生しないEVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)に変更
1982(昭和57)年	規制に先立ちトリクロロエチレンの使用を、全面廃止
1983(昭和58)年	甲府工場で、滅菌方法に排ガスの発生しないガンマ線滅菌を採用 水銀を使用しない電子体温計の販売開始
1984(昭和59)年	脱水銀のため、約70年間製造してきた水銀体温計の製造を終了
1989(平成元年)	ガラス真空採血管を、焼却処理しやすいポリエステル素材のプラスチック真空採血管に切り替え
1991(平成3)年	焼却時に有害ガスを発生しないポリブタジエンのチューブを使用した脱塩ビ輸液セットの販売開始
1992(平成4)年	医療現場の環境を考慮し、脱水銀化の一環として病院用電子血圧計の販売開始
1994(平成6)年	焼却時に硫黄酸化物を発生しない熱可塑性エラストマー素材バルーンカテーテルの販売開始
1996(平成8)年	甲府工場製造工程での、オゾン層破壊物質の特定フロンを使用廃止(順次他工場も実施) 新型プラスチック瓶針輸液セットの生産を開始。脱金属針により、病院内分別、焼却の容易化が可能
1997(平成9)年	本社に環境推進室を設置 甲府工場でコージェネレーション(電熱併給)発電が運転開始し、工場使用電力の60%を賄う 富士宮・愛鷹工場で、LPGから二酸化炭素発生量の少ない都市ガスに変更 重油の使用全廃(全生産事業所)
1998(平成10)年	シリンジ(注射筒)の小型・軽量化を実施。シリンジ廃棄重量を約25%削減 社内で使用するコピー用紙の再生紙への切り替え開始 富士宮工場にエチレンオキシド排ガス処理のため、触媒酸化式排ガス処理装置を導入
1999(平成11)年	テルモ環境基本方針を制定 富士宮工場でコージェネレーション発電が運転開始 カタログ、仕様変更案内など、再生紙への切り替え開始 在宅で使用する腹膜透析液容器の脱塩ビ化を開始、焼却時に有害ガスを発生しないポリプロピレンに変更、廃棄重量を40%削減
2000(平成12)年	環境委員会を発足 愛鷹工場でコージェネレーション発電が運転開始 容器包装識別表示、材質表示を開始 内部環境監査を開始 営業用ディーゼル車を全廃 2000年度より環境報告書を発行(以後、毎年発行)
2001(平成13)年	甲府工場と愛鷹工場の焼却炉運転停止 PCB含有機器の使用を廃止し、すべてを保管 非塩ビ製素材の小児用輸液セットの販売開始 富士山一斉清掃に社員と家族約80名が参加
2002(平成14)年	甲府工場でベンゼン・クロロホルムの全廃 甲府工場と愛鷹工場の焼却炉廃止・撤去 甲府地区と富士宮地区の共同参加(約130名)による富士山一斉清掃 甲府工場に観測井戸設置(地下水質監視) 可塑性DEHPの代替としてTOTMを使用した輸液セットの販売開始

環境との関わり

2003(平成15)年	愛鷹工場と本社でゼロ・エミッション達成 LPGから都市ガスに変更(甲府工場)。国内主要事業所すべてが燃料転換完了 海外事業所の現地調査を実施 テルモ富士山森づくりを開始
2004(平成16)年	「高カロリー輸液用総合ビタミン・糖・アミノ酸・電解質液」で平成16年(第1回)エコプロダクツ大賞 「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞」受賞 甲府工場と富士宮工場でゼロ・エミッション達成
2006(平成18)年	湘南センターでゼロ・エミッション達成 RoHS指令適合電子血圧計発売 甲府工場にターボ冷凍機導入 愛鷹工場にエチレンオキシド排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を導入 「チーム・マイナス6%」に参加
2008(平成20)年	富士宮工場が「エネルギー管理優良工場 関東経済産業局長賞」を受賞 愛鷹工場にエチレンオキシド排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を増設 廃プラスチック油化処理テストプラントの設置
2009(平成21)年	「Human×Eco 開発指針」の導入 海外生産事業所の環境監査を開始 富士宮工場が「平成21年度エコシップ・モーダルシフト優良事業者」に認定 富士宮工場にエチレンオキシド排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を増設
2010(平成22)年	富士宮工場に太陽光発電システムを導入 甲府工場が「関東地区電気使用合理化委員会委員長賞 最優秀賞」を受賞 愛鷹工場にエチレンオキシド排ガス処理のための触媒酸化式排ガス処理装置を増設

活動の目標と実績

活動の目標と実績

マネジメント・社会・環境パフォーマンスの取り組み項目を充実させながら、その実績と自己評価を掲載しています。今後も継続して社会貢献活動や環境保全活動を推進し、「良き企業市民」として適正な情報を開示していきます。

評価 ○：目標達成 △：目標を一部未達成 ×：目標を未達成

マネジメントパフォーマンス				
取り組み項目	自主目標(中期目標)	2010年度実績	2010年度評価	2011年度の取り組み
内部統制への取り組み	●内部統制システムの継続的な見直しと運用	●内部統制システムの整備・運用	○	●内部統制システムの整備・運用
コンプライアンスの推進	●コンプライアンス研修の継続	●コンプライアンス研修の継続	○	●コンプライアンス研修の継続

社会パフォーマンス				
取り組み項目	自主目標(中期目標)	2010年度実績	2010年度評価	2011年度の取り組み
アクセス性の高いコールセンター	●受信率95%以上、着信応答時間2.5秒以内の維持	●受信率95.6%、着信応答時間2.2秒	○	●受信率95%以上、着信応答時間2.5秒以内の維持
障害者雇用の推進	●障害者雇用率1.8%の維持	●2011年3月末現在、障害者雇用率1.84%	○	●障害者雇用率1.8%の維持
労働安全衛生	●死亡・重大労災をゼロに、労災件数を前年度からダウン	●2010年度死亡・重大労災ゼロ(前年度0件)、その他労災件数30(前年度16件) 度数率*1:3.31825 強度率*2:0.00318	△	●死亡・重大労災ゼロを維持、労災件数を前年度からダウン
女性社員の育成	●性差なく、能力・業績をベースとした育成・登用を実施	●女性管理職比率3.2%(2011年3月末現在)	△	●性差なく、能力・業績をベースとした育成・登用を推進
公正な採用の推進	●人種・国籍・性別・宗教・身体などに関係なく、能力をベースとした採用を実施	●採用担当者の教育、マニュアルの整備	○	●公正な採用及びそのための採用担当者の教育を継続

*1 度数率:労災における死傷者数÷延べ労働時間×1,000,000

*2 強度率:延べ労働損失日数÷延べ労働時間×1,000

環境パフォーマンス				
取り組み項目	自主目標(中期目標)	2010年度実績	2010年度評価	2011年度の取り組み
事業が環境へ与える影響の把握	●開発・生産・営業活動の中で環境に与える影響を定量的に把握する	●環境影響評価の継続実施 ●生産事業所の敷地境界での臭気測定開始	○	●環境影響評価の継続実施
環境に配慮した製品	●医療現場での脱水銀 ●各国規制対応	●医療機関向け電子血圧計の販売促進 ●製品の環境負荷をLCA(ライフサイクルアセスメント)を用いて評価実施 ●Human×Eco開発指針の運用推進 ●包装材削減の取り組み ●使用済み小型充電式電池の回収サイクル	○	●RoHS指令適合製品の開発と保証システム構築継続 ●「Human×Eco開発指針」の運用促進 ●製品の環境負荷をLCAを用いて評価

活動の目標と実績

環境パフォーマンス				
取り組み項目	自主目標(中期目標)	2010年度実績	2010年度評価	2011年度の取り組み
環境汚染の予防	●ジクロロメタンの排出量99t以下を継続	●ジクロロメタン排出量は76t ●エチレンオキシド敷地境界濃度自主測定実施 ●愛鷹工場に触媒酸化式排ガス処理装置を増設	○	●ジクロロメタンの排出量99t以下を継続 ●エチレンオキシド敷地境界濃度自主測定継続
エネルギーや資源の有効活用	●2012年度までに、二酸化炭素排出量を原単位で1990年度比50%削減する	●エネルギーをガスから二酸化炭素排出係数の少ない電力へ転換を推進 ●二酸化炭素排出原単位を1990年度比44%削減 ●甲府工場が「関東地区電気使用合理化委員会委員長賞 最優秀賞」受賞 ●「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、社内エコキャンペーンの実施 ●エコドライブの推進 ●オフィスでの省エネルギー活動の推進 ●廃プラスチック油化の実験を継続実施	○	●節電の推進 ●電力の見える化への対応 ●「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、節電を目的とした社内エコキャンペーンの実施 ●エコドライブの推奨 ●オフィスでの省エネルギー活動の推進継続 ●廃プラスチック油化の実験継続
廃棄物の削減	●営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を廃棄物等総排出量比1%未満にする	●国内全生産事業所(富士宮工場、愛鷹工場、甲府工場)と研究開発センター、本社でゼロ・エミッション継続 【ゼロ・エミッション:廃棄物最終処分量が廃棄物等総排出量の1%以下】 ●電子 manifests の利用拡大	○	●営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量の廃棄物等総排出量比1%未満を継続 ●グループを含めた電子 manifests の利用を促進
環境マネジメントシステムの構築	●テルモグループ全体においてテルモ環境マネジメントシステムに適合維持	●国内事業所、国内グループ会社がテルモ環境マネジメントシステムを維持継続 ●国内事業所、国内グループ会社を対象に環境監査を実施 ●テルモヨーロッパ社で環境監査を実施 ●バスケテック社の現地確認を実施	○	●国内事業所、国内グループ会社がテルモ環境マネジメントシステムを維持継続 ●国内事業所、国内グループ会社の環境監査を継続実施 ●海外工場への環境監査実施
ボランティア活動の支援	●ボランティア活動の支援	●テルモ富士山森づくりの実施(郷土樹種による自然林再生) ●多摩川クリーン作戦(東京)への参加をはじめとするボランティア支援活動 ●エコキャップ運動に参加 ●事業所周辺の清掃活動実施	○	●テルモ富士山森づくりをはじめとするボランティア支援活動の継続
環境コミュニケーションの推進	●社会・環境報告書の発行 ●環境月間の取り組み	●2010年版テルモガイド(社会・環境報告書)の発行 ●環境月間の取り組み ●社内ホームページで、環境月間特集記事を連載 ●社員参加型エコ活動に2,419名参加 ●社員対象環境教育の実施	○	●2011年版テルモガイド(社会・環境報告書)の発行 ●環境月間の取り組み ●社員参加型エコ活動の継続 ●社員対象環境教育の継続
環境法令の遵守	●環境保全に関する法律、条令、協定等の遵守、海外での法令遵守の確認	●改正省エネ法、温対法への対応 ●REACH等海外化学物質規制への対応 ●土壌汚染対策法改正への対応	○	●改正省エネ法、温対法への対応 ●REACH等海外化学物質規制への対応継続

報告方針

報告方針

本報告書は、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」の実現に向けた事業活動を分かりやすく報告し、社会とのコミュニケーションを促進することを目的に作成しました。

特集では、企業理念の実現に向けたテルモの姿勢として、がん患者さんの治療を支える血小板輸血や、患者さんの負担を減らす脳動脈瘤のカテーテル治療への取り組み、また先端医療を届ける医療者のパートナーとしての取り組みについて紹介しています。

対象範囲

可能な限り国内外の連結決算対象のテルモグループを報告対象としましたが、項目により、報告対象が異なる場合があります。

対象期間

2010年度（2010年4月1日～2011年3月31日）
活動には、一部直近の内容も含まれます。

発行時期

今回発行：2011年10月
前回発行：2010年7月
次回発行：2012年7月予定

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006」
環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」

報告書アーカイブ方法

過去の報告書は年度ごとにPDF形式にまとめ、ウェブサイトを通じて報告しています。

 [バックナンバー](#)